

日本海の地震・津波に関する予知・想定に対する認識に関する調査研究  
Survey Research on Perceptions about the Prediction and Estimation  
of Earthquake and Tsunami around the Sea of Japan

関谷直也 SEKIYA Naoya

田中 淳 TANAKA Atsushi

目次

- 1 はじめに
  - 1.1 調査目的
  - 1.2 調査概要
2. 日本海地震・津波に関する認識
  - 2.1 日本海地震・津波に関する知識
  - 2.2 発生確率を示せない日本海地震・津波の公表に関する認識
  - 2.3 想定 of 認知度
  - 2.4 津波の巨大想定に関する評価・意識
  - 2.5 日本海側の津波避難・救助に関する認識
- 3 地震の予知や予測についての理解と素朴に持っている認識
  - 3.1 地震に関連する用語の認知率
  - 3.2 震度とマグニチュード
  - 3.3 地震の予知や予測についての認識
4. 「想定」の公表についての意見
  - 4.1 「最大、最悪の想定」に関する理解
  - 4.2 地震の予測精度と公表に関する認識
  - 4.3 表現技法に関する意見
5. 地震動予測地図の影響
6. 被害想定についての意見
7. 結論ならびに今後の課題

附属資料 単純集計結果

---

キーワード：津波防災、予知、被害想定、地震動予測地図

関谷直也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター） 0.～7.

田中 淳（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）

本研究は文部科学省「日本海地震・津波調査プロジェクト」の一環として行われたものである

## 0. 要旨

本研究では、日本海側住民の全体的な特性を明らかにするため、特に「想定」についてのアンケート調査を実施した。

結果、①日本海側の地震・津波に関する認識として、その発生の可能性や過去の履歴、特性について認知度が低く、想定もあまり周知されていないということ、②地震の予知や予測についての理解や認識として、様々なことを周知する以前に地震に関連する用語についての認知率が低く、震度、マグニチュードの違いが判らないという人が約半数いることなどが明らかになった。

また、想定公表に関する人々の一般的な意識として、①いわゆる「最大、最悪の想定」については肯定的であり、頻度の高い想定よりは、最大の想定を求めていること、②高い精度を求めているわけではなく可能性のあるものについては公表すべきと考えている人が多いこと、③表現技法として、定量的表現よりも定性的表現やレベルなどでの情報を求める人が多いこと、年確率表現や「m」「%」という表現のみではわかりにくいという人が多く、課題があることが分かった。

災害の被害想定については、参考程度に考えているという人が多いものの、情報としては有意義なものと捉えられている。ただ、現状では対策やとるべき行動がイメージしにくく、被害や対策についてイメージがわきにくいというのが課題として明らかになった。

## 1. はじめに

### 1.1 調査目的

本調査では、本研究の目的を達成するために、2013年度から14年度にかけて住民アンケート調査研究の実施および分析、日本海自治体と住民（新潟市）へのヒアリングの実施、2014年度から15年度にかけて日本海自治体郵送調査の実施および分析を行ってきた。2016年度は、日本海側住民の特性を明らかにするため、特に「想定」についてのアンケート調査を実施した。

具体的には、日本海地震・津波に関する認識、地震予知や予測についての理解と素朴に持っている認識、想定公表についての意見、地震動予測地図の影響、被害想定についての意見などについての意識を考えるべくアンケート調査を設計、実施した。

### 1.2 調査概要

調査概要は以下の通りである（表 1.1）。なお本調査は、同時期に、日本海以外の県でも同様の調査票を用いた調査を実施しており、各県 50 票を回収し全県調査とした。

なお各県 50 票に加え、兵庫県と京都府に関しては日本海と太平洋に接しており、日本海側の意識も今後分析することを考えて、兵庫県と京都府の日本海側の 8 市町村を加えた。山口・青森は調査対象者が太平洋側に寄っていたため、太平洋側として計算した。

本報告では、基本的には本プロジェクトで実施した日本海側の調査結果からみえてくる特徴のみを述べていくものであるが、参考値として、太平洋側、内陸側の結果も参考値として提示する（以降、それぞれを「日本海側」「太平洋側」「内陸側」と省略する）。

調査は全部で 54 問にわたる。本稿は本調査の主要部について記述する。

表 1.1 調査概要

調査対象：全国 20 代～60 代の男女個人、性・年代（20 代から 60 代）均等割付
調査方法：楽天リサーチのオンラインモニター調査
調査時期：2017 年 3 月 9 日（木）～3 月 13 日（月）
調査地域：47 都道府県各 50 票＋指定エリア 50 票、計 2,400 票
➤ 1. 日本海側道県（北海道、秋田、山形、新潟、富山、石川、福井、鳥取、島根、福岡、佐賀、長崎）600 票 ※日本海プロジェクトとして実施
※京都府日本海側市町村（舞鶴市、宮津市、京丹後市、与謝郡伊根町・与謝野町）32 票
※兵庫県日本海側市町村（豊岡市、美方郡香美町、美方郡新温泉町）18 票
➤ 2. 太平洋側都府県（青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉、東京、神奈川、静岡、愛知、三重、和歌山、大阪、兵庫、岡山、広島、京都、徳島、高知、愛媛、山口、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）1,300 票 ※拠点間連携共同研究として実施
➤ 3. 内陸（そのほか、含熊本）450 票 ※拠点間連携共同研究として実施

## 2. 日本海地震・津波に関する認識

### 2.1 日本海地震・津波に関する知識

まず、日本海地震・津波に関する知識について問うた（図 2.1）。

「日本海側で津波が起こる可能性があること」を知っているという人は日本海側で 51.8%、「日本海側の津波は到達するまでの時間が短いこと」を知っているという人は日本海側で 34.9%、「日本海側の津波の発生確率の計算は難しいこと」を知っているという人は 18.0%、「日本海側の津波については大規模に広域で津波が発生する可能性は低いこと」を知っているという人は日本海側で 22.0%であった。ほぼ同じ傾向として、知っているという人の割合はこの 3 分類の中で最も高いものの、そこまでそのことを知っている人が多い訳ではないし、太平洋側や内陸側よりもいずれも少し高いというだけであった。

若干、詳細な知識についても問うた（図 2.2）。「日本海側では太平洋側と違いプレート境界が明白でないこと」を知っているという人は日本海側で 22.8%、「もっともはやく到達する津波の想定が最も大きな津波の想定という訳ではないこと」を知っているという人は日本海側で 37.2%、「日本海側の津波の想定は断層毎で最大クラスの津波を想定し、その津波があった場合に想定される浸水区域、推進、津波到達時間を示したものであること」を知っているという人は日本海側で 14.9%であった。やはり、これら想定の詳細についても、知っているという人の割合はこの 3 分類の中で最も高いものの、そこまで多い訳ではないし、太平洋側や内陸側よりもいずれも少し高いというだけであった。

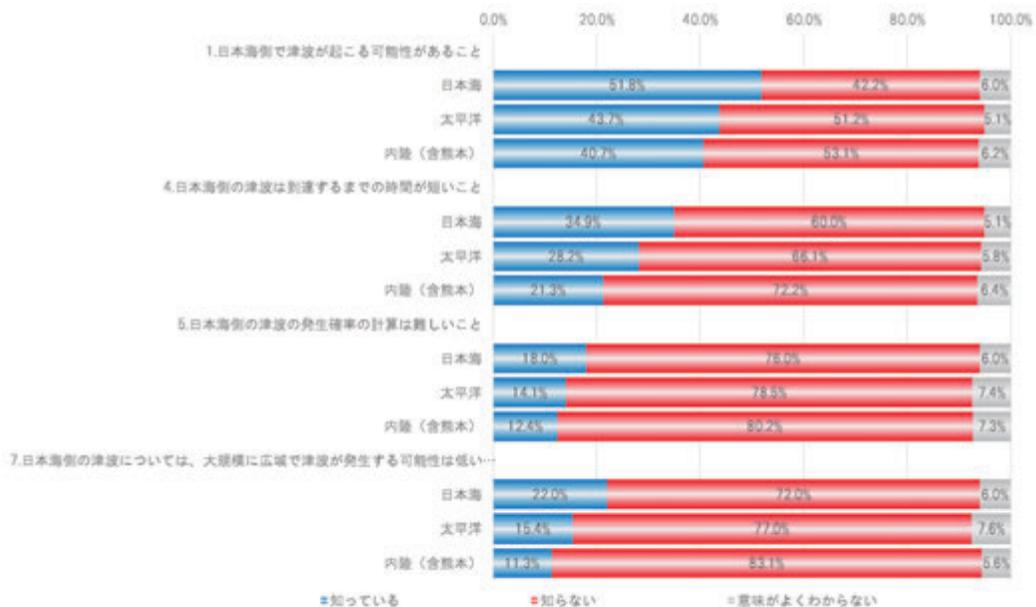


図 2.1 日本海地震・津波に関する知識①

また、単純な過去の津波の認知についても問うた（図 2.3）。「日本海側で過去、津波が発生してきたこと」を知っているという人は日本海側で 48.6%、「日本海側では、1964 年に新潟地震で津波が発生したこと」を知っているという人は日本海側で 27.4%、「日本海側では、1983 年に日本海中部地震で津波が発生したこと」を知っているという人は日本海側で 31.7%、「日本海側では、1993 年に北海道南西沖地震が発生し、奥尻町が被害を受けたこと」を知っているという人は日本海側で 50.6%であった。日本海側で津波が発生してきたということを認知している人は半分しかいないし、北海道南西沖地震のみ認知率が高いものの、それよりも過去になると 1/4 程度しか知らないという結果であった。

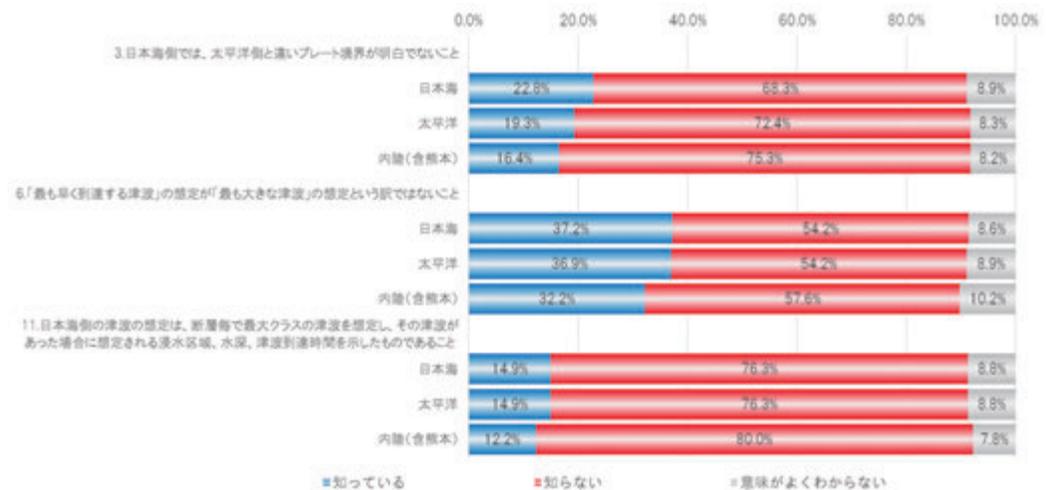


図 2.2 日本海地震・津波に関する知識②

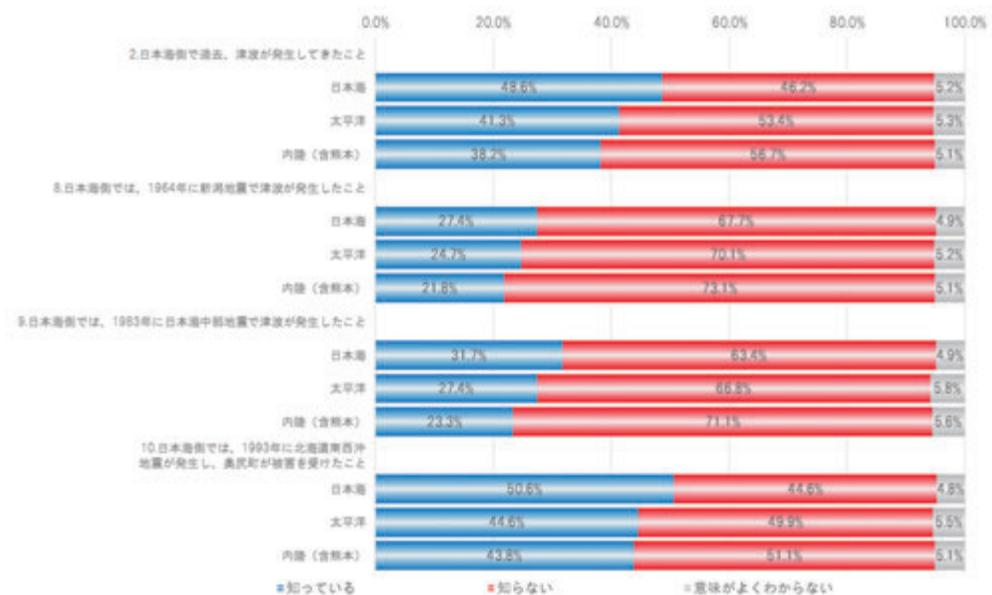


図 2.3 過去の日本海側の津波の認知

## 2.2 発生確率を示せない日本海地震・津波の公表に関する認識

次に、発生確率への認識について考える。津波防災地域づくりの推進に関する基本的な指針（平成 24 年 1 月告示）によれば、津波防災地域づくりに関する法律（平成 23 年 12 月公布・施行）の第 8 条 1 項定められた「津波浸水想定の設定」を「最大クラスの津波を想定」することになっている。このため 2014 年に「日本海における大規模地震に関する調査検討会」において、60 の断層モデルから最大クラスの津波を設定したものの、日本海側は過去の津波の履歴が少なく発生確率については計算できていない。これは太平洋側の地震・津波については、過去の繰り返しの履歴がある程度知見としてあることから、ハード設備も踏まえて備える L1（数十年～百数十年に 1 回）、主にソフト対策で備える L2（数百年～千年に 1 回）といった形の示され方がなされていることと大きく異なる点である。

これについて「日本海側の津波は過去の履歴がはっきりとわかっていないのでの発生確率（今後〇〇年に 1 回、〇〇年に〇%）という形で示すことはできません。あなたはこのことについてどう思いますか？」と聞いたところ、「発生確率がわからないなら公表しない方がよいと思う」が 26.0%、「発生確率がわからなくとも、公表した方がよいと思う」74.0%であった（図 2.4）。またこれは地域による差はなかったことから、発生場所（日本海側の津波であるかどうか）や自分の住んでいる場所かどうかにかかわらず、一般的に確率評価がしめされなくても、公開を多くの人が望んでいることがわかった。

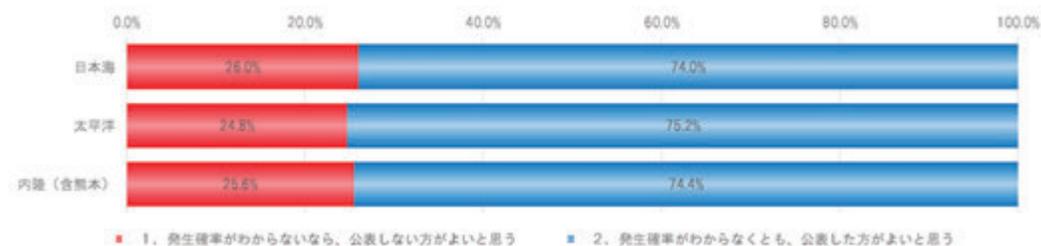


図 2.4 日本海側の津波が発生確率を示せないことについて

## 2.3 想定認知度

次に想定認知度について考える。「日本海津波の浸水想定」は、先行した新潟・秋田の他、2014 年の国の「日本海における大規模地震に関する調査検討会」での断層モデルおよび津波高・到達時間の計算の後、各都道府県で浸水想定が検討・策定されているところであり、これらが各県においてこの数年、報道されている。これら様々な想定について「政府、都道府県、市町村は災害で災害被害が考えられる災害について想定をしています。あなたはこのことを知っていますか？」と認知の度合いを聞いた（図 2.5）。結果、地域差は

あまりなく「南海トラフ地震の被害想定」「首都直下地震の被害想定」のみが飛びぬけて認知度が高いほか、質問文で提示した様々な被害などの想定のみで、日本海は最も認知度が低かった。

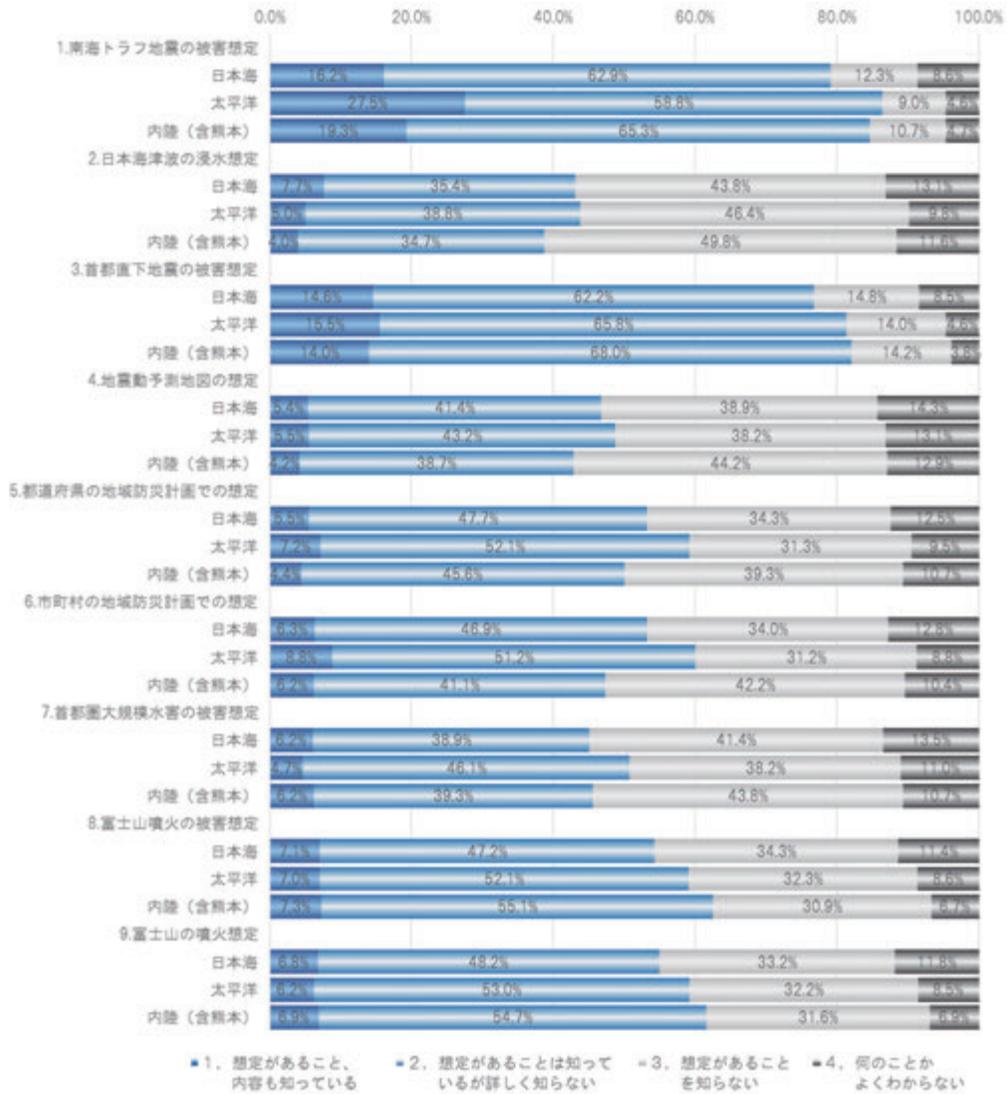


図 2.5 想定認知率

次に南海トラフ、日本海側の津波、地震動予測地図、首都直下地震について、詳しく説明し、同じ質問項目で認知度を問うた（表 2.2、図 2.6）。具体的には以下の通りである（それぞれ南海トラフ巨大津波、日本海津波、首都直下地震、地震動予測地図と略）。

しかしながら、それでも結果に大きく違いはなく、「想定があることは知っているが、詳しく知らない」という回答率が若干、上昇する程度であった。おおむね、日本海側の津波想定に関して、認知度は低いことがわかった。

だが、それぞれの想定について「あなたはこれらを知って、何か対策をとろうとおもいますか」と聞いたところ、日本海側の津波については、日本海側の住民は「対策をとろうと思う」という回答が 39.2 %、と回答している人は多く、「対策をとろうとは思わない」という人は 24.6 % と少なかった（図 2.7）。住民の多くは対策をとらなければならないということは認識しているのである。これらを総合すると、単純に、認知度が低いというのが最大の課題であり、想定周知不足が課題であることがわかった。

表 2.2 質問項目における説明

「巨大想定」や地震動予測地図についてお伺いします。	
A.	2012 年、政府は、南海トラフの巨大津波想定について、どのような地震・津波が発生するかについて、またその被害想定について公開しています。
B.	2014 年、政府は、日本海側の津波について、どのような地震・津波が発生するかについてモデルを示し、それを受け、現在、各県が被害想定を公表（もしくは公表しよう）としています。
C.	阪神・淡路大震災後、政府は地震動予測地図というものを示し、地震の発生確率を公表しています。
D.	首都直下地震の地震について、政府がモデルを公表し、都が被害想定を公表しています。

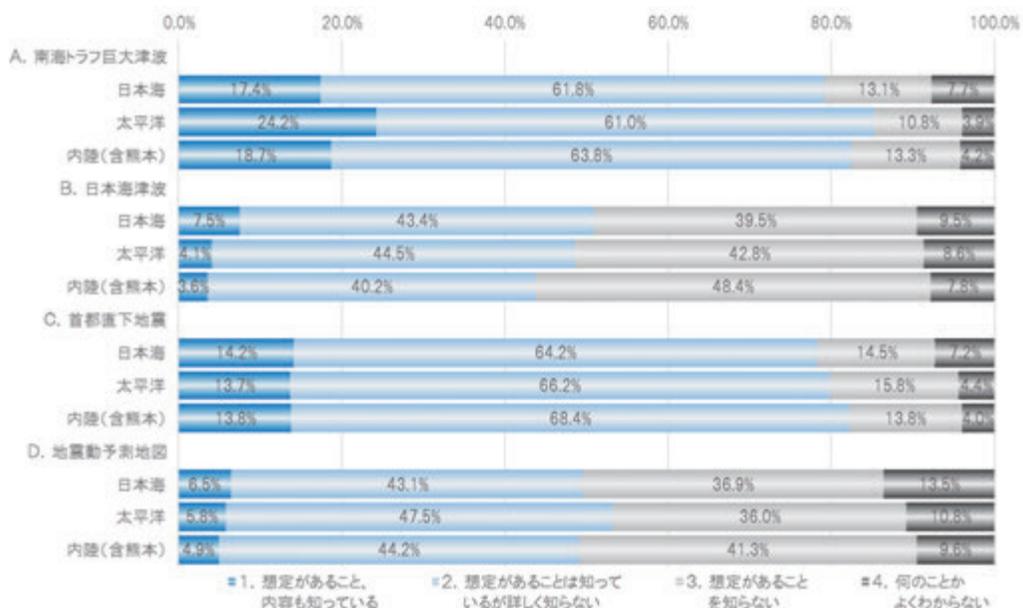


図 2.6 想定認知率（南海トラフ巨大津波、日本海津波、首都直下地震、地震動予測地図）

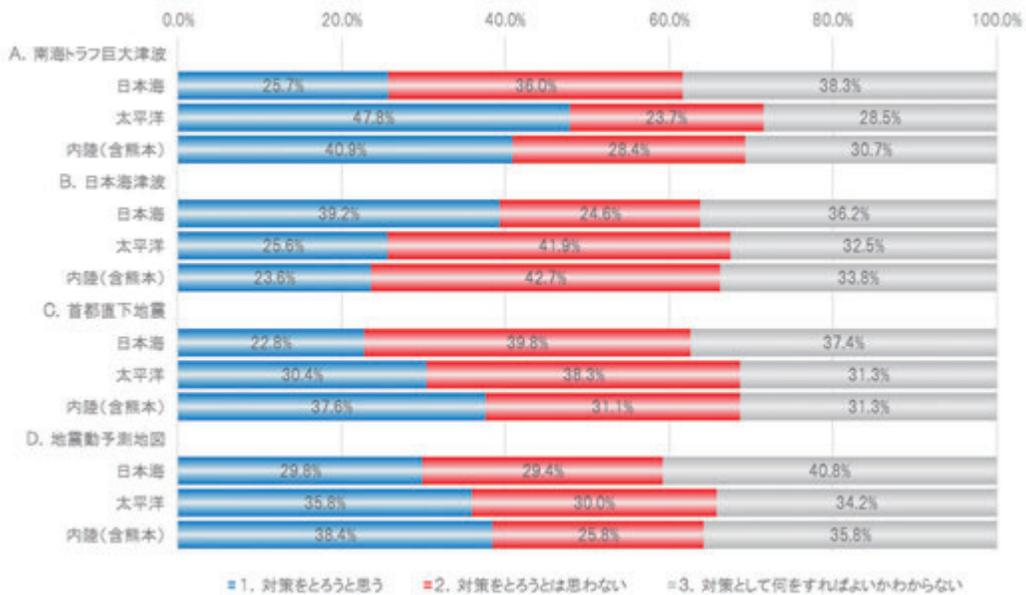


図 2.7 対策の意図（南海トラフ巨大津波、日本海津波、首都直下地震、地震動予測地図）

## 2.4 津波の巨大想定に関する評価・意識

また、津波の巨大想定に関する評価・意識についても問うた（図 2.8）。「日本海側の津波で巨大想定を出すことはいいことだと思う」という人は日本海側で 81.5 %（「強くそう思う」「ややそう思う」の合計、以下同様）、「日本海でも太平洋側と同規模の巨大な津波がくる可能性はほぼない」という人は日本海側で 40.7 %であった。日本海側の津波については巨大津波の可能性はきわめて低いのだが、巨大津波の可能性があると考えている人も多く、またそれゆえに、巨大津波の想定に肯定的な人が多いということがわかった。

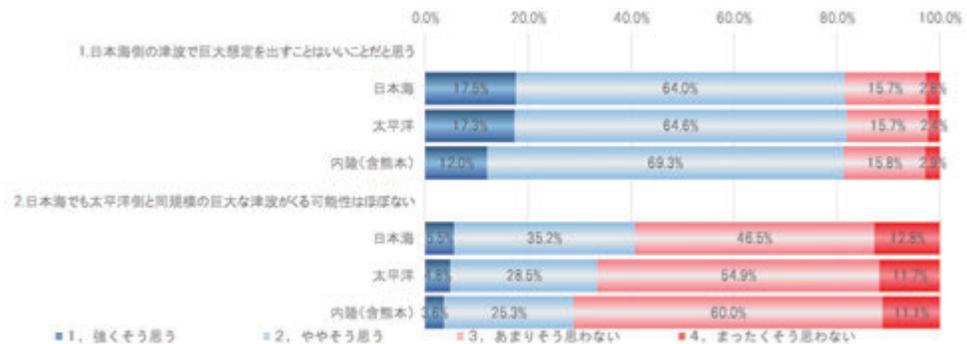


図 2.8 津波の巨大想定に関する評価・意識

## 2.5 日本海側の津波避難・救助に関する認識

避難に関する意識についても問うた（図 2.9）。「日本海側は地震の規模に比べて津波が高く、津波到達までの時間が早いので、津波警報をまっぴりではない」という人は日本海側で 75.0 %、「緊急時に沿岸部に救助に行くべきではない」という人は日本海側で 80.0 %と非常に多かった。ただし、これは日本海津波想定認知率が低い上での回答であるので、日本海側の津波の特徴の詳細をあまり踏まえずに、一般的な津波の知識として理解されている可能性が高く、その理解については若干の留保が必要である。

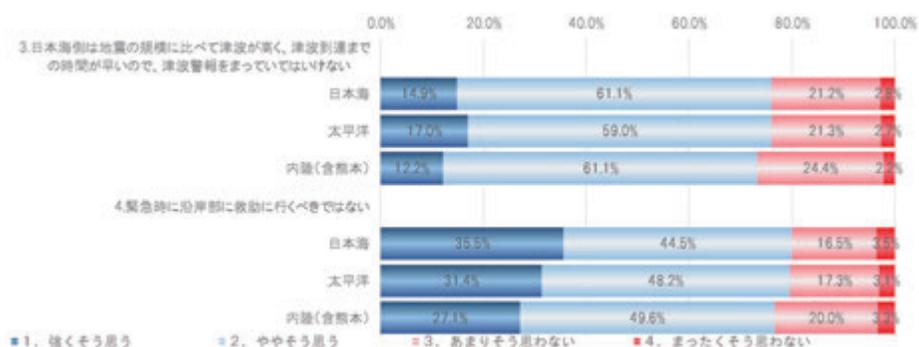


図 2.9 日本海側の津波避難・救助に関する認識

## 3 地震の予知や予測についての理解と素朴に持っている認識

次に、地震の予知や予測についての理解と素朴に持っている認識（しろうと理論 Lay Theory (Furnham, A.F., 1988) について検討した。

### 3.1 地震に関連する用語の認知率

まず、用語の認知率について問うた（図 3.1）。それぞれ日本海側での認知率は「本震/余震」68.2 %、「緊急地震速報」69.7 %、「震度」62.5 %、「プレート」57.7 %、「断層」56.5 %、「マグニチュード」56.0 %、「活断層」53.1 %、「地震動予測地図」21.7 %、「逆断層」14.9 %、「地震調査研究推進本部」6.5 %であった。おおむね日本海側、太平洋側、内陸で大きな差は見られなかった。報道やさまざまところで、地震に関する用語がつかわれるものの、それを理解している人は 7 割～5 割であり、認知していない人も多いことがわかる。

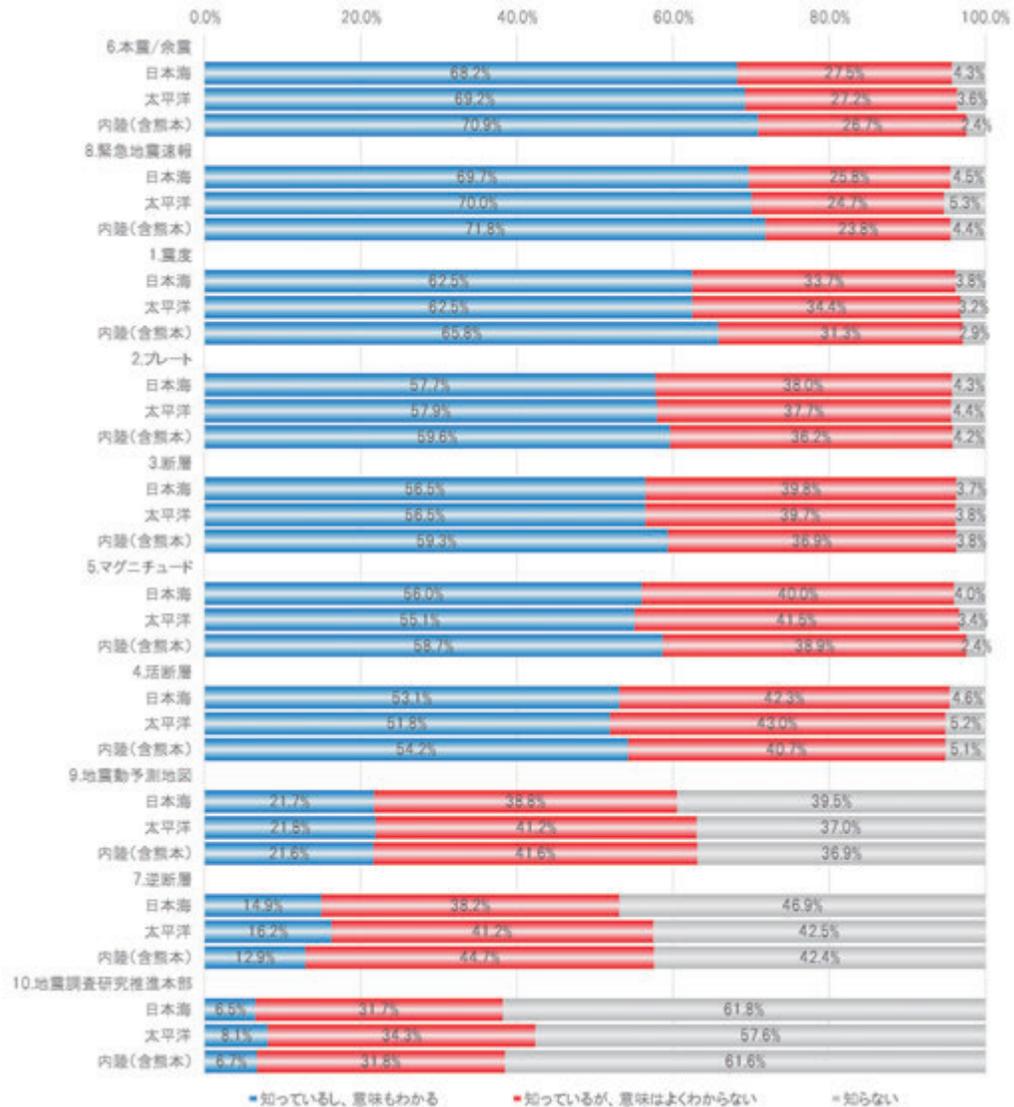


図 3.1 地震に関連する用語の認知率

### 3.2 震度とマグニチュード

地震で最も基本的な知識である「震度」「マグニチュード」について問うた(図 3.2)。「地震が発生したときに発表されるものには、震度の他にマグニチュードがあげられます。あなたは、震度とマグニチュードの違いについて、学校で習った記憶はありますか。」と問うた。日本海側において、「習った記憶があり、違いもわかる」という人は 16.5%、「習った記憶はないが、違いがわかる」という人は 36.0%、「習った記憶はあるが、違いがわからない」という人は 20.5%、「習った記憶もないし、違いもわからない」という人は 27.1%

であった。違いがわかる人は約半数で、約半数の人は報道でマグニチュードや震度を正確に理解していなかった。なお、内陸側、太平洋側、日本海側の順で理解はされているものの、全体として大きな差はなかった。

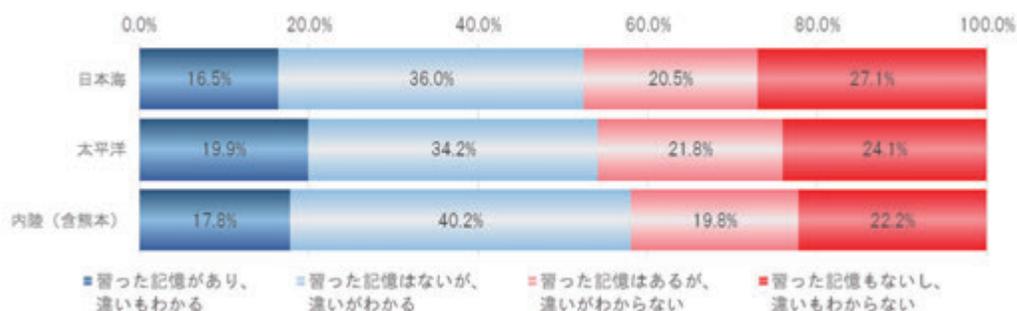


図 3.2 震度とマグニチュード

### 3.3 地震の予知や予測についての認識

次に地震の予測について「現在の地震学・科学での長期的な地震動の予測は可能だと思いますか」と問うたところ、「精度は極めて高く、ほぼ確実に予測できる」は 1.2 %、「精度は高く、ある程度の精度で予測できる」は 20.2 %、「予測できるものもある」は 47.4 %、「精度は低く、ほとんど予測できない」は 21.8 %、「精度は極めて低く、まったく予測できない」は 9.4 %であった。多くの人が、ある程度予測できると答えていた (図 3.3)。

また、それがゆえに、地震の予測に基づく様々な想定についても、多くの人が信頼をおいている。様々な公式の調査について、居住地域や対象によらず、8 割弱の人が信頼をおいていた (図 3.4)。

次に地震予知の認識について詳細に問うた (図 3.5)。日本海側では「地震予知研究を推進するのはよいと思う」という人は 89.7 %、「地震予知ができれば多くの人が救えるので、政府は全力をあげて、この研究を推進すべきだ」という人は 82.9 %、「現在の地震学の水準で地震を予測するには限界があると思う」という人は 73.5 %、「近い将来、短期の地震予知は可能になると思う」という人は 73.4 %、「地震予知は実現しつつあると思う」という人は 63.1 %、「純粋に科学の発展のために研究は進めるべきで、地震予知のようなものに研究資源を費やすべきではない」という人は 31.7 %、「地震予知をできる能力があるのに、難しいというのは研究者としての責任を果たしていないと思う」という人は 39.0 %であった。おおむね、現在の地震学の水準では限界があることを理解しつつも、地震予知に期待している人が多いことがわかった。

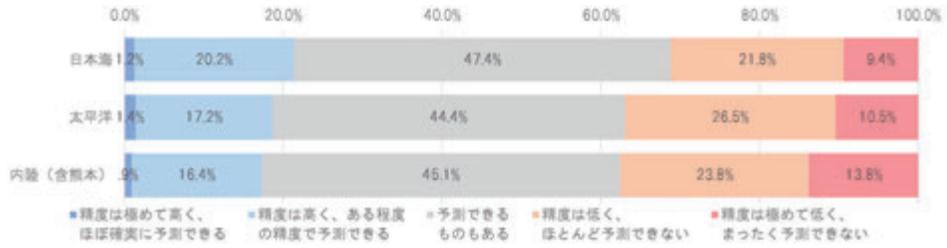


図 3.3 現在の地震学・科学での長期的な地震動の予測は可能と思うか

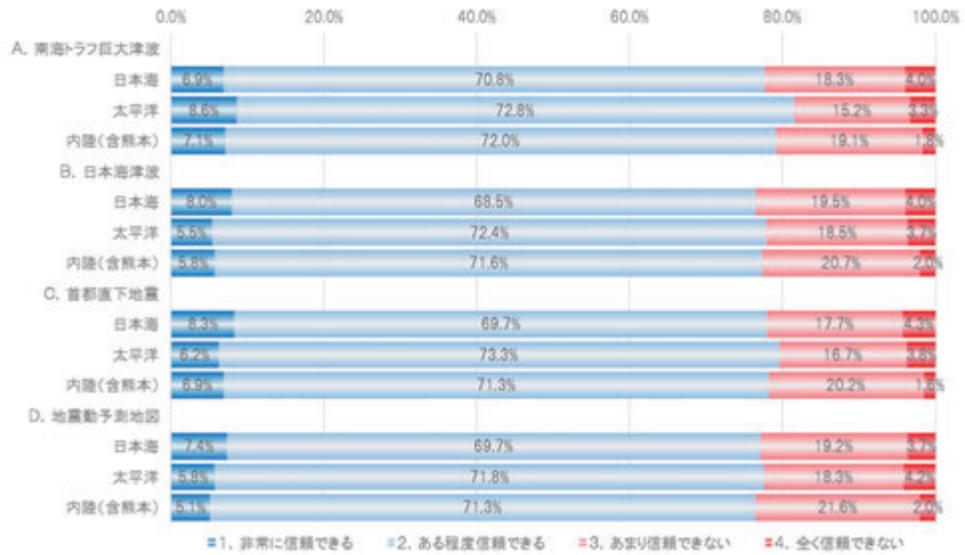


図 3.4 想定への信頼（南海トラフ巨大津波、日本海津波、首都直下地震、地震動予測地図）

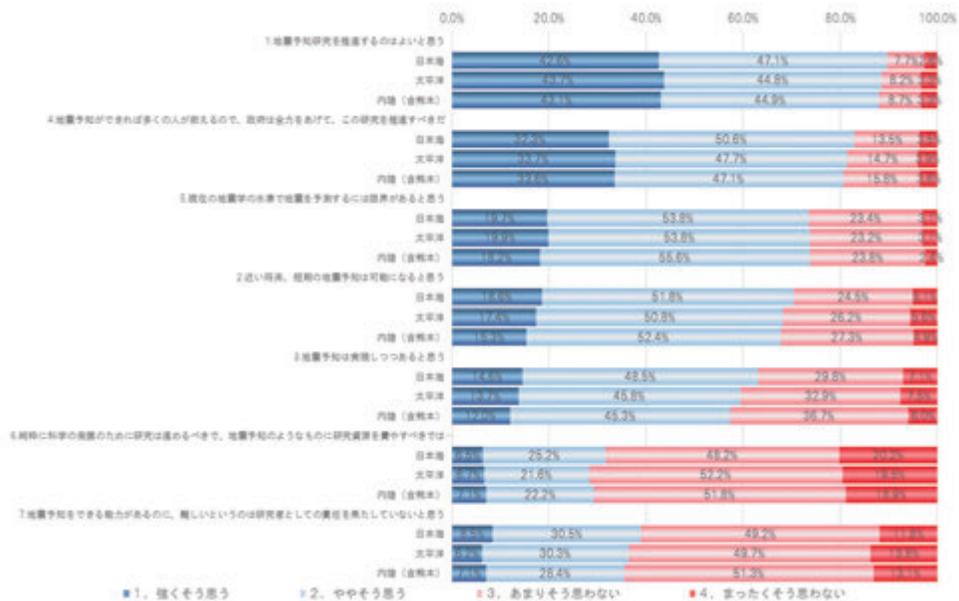


図 3.5 地震予知への認識

#### 4. 「想定」の公表についての意見

##### 4.1 「最大、最悪の想定」に関する理解

また、いわゆる「最大、最悪の想定」についても詳細に問うた（図 4.1）。「対策を進めるきっかけになるので、最大、最悪の想定を出すのはよいと思う」という人は 87.4 %、「覚悟ができるので、最大、最悪の想定を出すのはよいと思う」という人は 83.9 %、「インパクトを与えるという意味で、最大、最悪の想定を出すのはよいと思う」という人は 71.4 %、「対策は後に考えればよいことなので、最大、最悪の想定を出すのはよいと思う」という人は 54.0 %、「確実に起こる訳でないなら、最大、最悪の想定を出さない方がよいと思う」という人は 27.3 %、「対策もとれないようなら、最大、最悪の想定は出さない方がよいと思う」という人は 29.0 %であった。

東日本大震災の後、想定外を無くすとの旗印のもと「最大、最悪」の想定を行うことが基本となっている。そして自治体や具体的な防災対策を整える側はその扱いに苦労しているという課題がある。だが、一般的に多くの方は、「最大、最悪の想定」について肯定的であり、これらを情報として出すことについては肯定的であることがわかった。

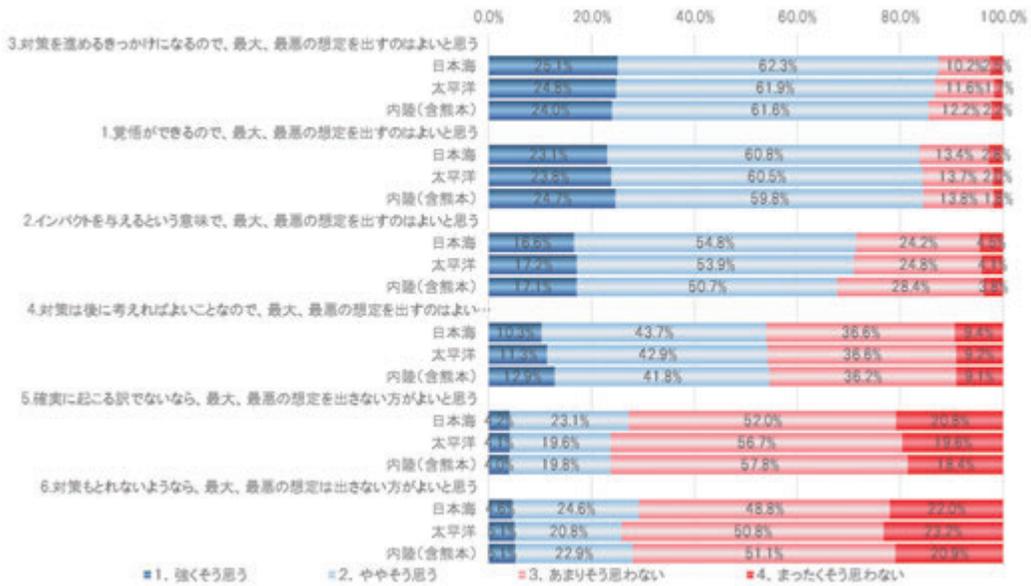


図 4.1 「最大、最悪の想定」に関する理解

#### 4.2 地震の予測精度と公表に関する認識

地震予測の精度と公表について問うたところ、「必ず的中する確実な予測だけを公表してほしい」という回答が 8.0%、「必ずではなくても構わないので、少しでも可能性のあるものは公表してほしい」という回答が 84.0%、「少しでも不確実性のあるものは公表すべきではない」という回答が 8.0%であった。おおむね、住民は精度の高い予測を求めているわけではなく、可能性のあるものを欲していることがわかる（図 4.2）。

また、この想定については、表現の仕方について様々な意見がある。その中でも対立しやすい意見について、問うた（図 4.3）。

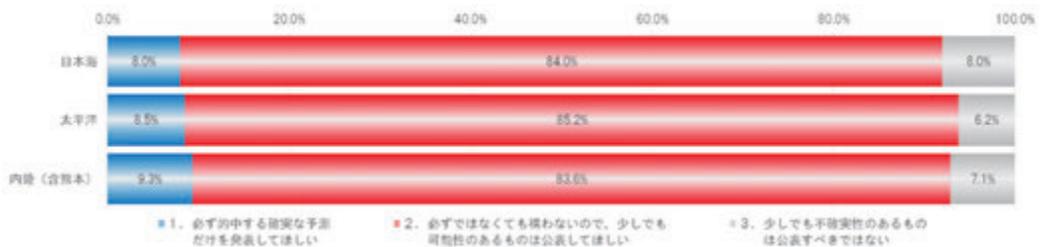


図 4.2 地震の予測の精度と公表

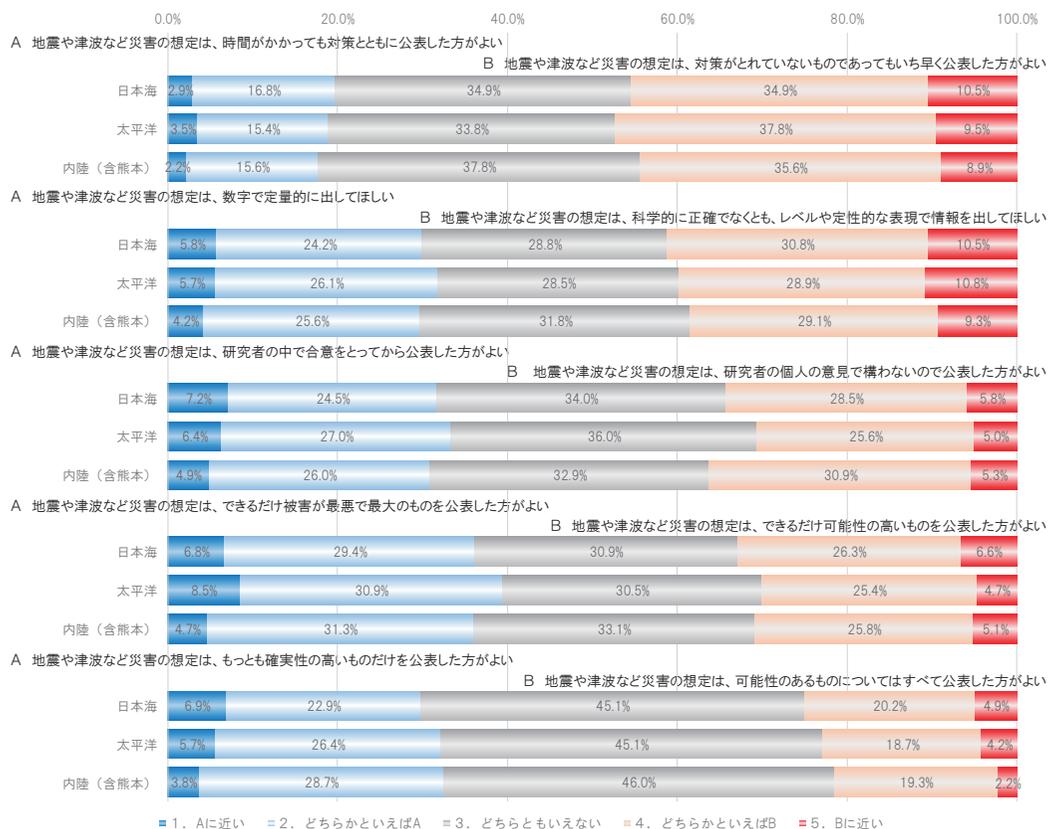


図 4.3 表現の仕方についての対立する意見

早めの公表がよいか、対策をセットで考えた方がよいか「A 地震や津波など災害の想定は、時間がかかっても対策とともに公表した方がよい」「B 地震や津波など災害の想定は、対策がとれていないものであってもいち早く公表した方がよい」という選択肢の、どちらに考え方が近いかを聞いたところ、多くの人が早めに公表した方がよいと答えていた。

定性的表現と定量的表現について、「A 地震や津波など災害の想定は、数字で定量的に出してほしい」「B 地震や津波など災害の想定は、科学的に正確でなくとも、レベルや定性的な表現で情報を出してほしい」という選択肢の、どちらに考え方が近いかを聞いたところ、定量的な表現よりは、定性的表現を求めている人が若干多かった。

想定に関して最大のものを公表した方がよいか、最頻のものを公表した方がよいかについて「A 地震や津波など災害の想定は、できるだけ被害が最悪で最大のものを公表した方がよい」「B 地震や津波など災害の想定は、できるだけ可能性の高いものを公表した方がよい」という選択肢の、どちらに考え方が近いかを聞いたところ、最大のものを公表した方がよいという人が若干多かった。

なお、「A 地震や津波など災害の想定は、研究者の中で合意をとってから公表した方がよい」「B 地震や津波など災害の想定は、研究者の個人の意見で構わないので公表した方がよい」という公式見解か、個人の見解かという点については議論が分かれていた。「A 地震や津波など災害の想定は、もっとも確実性の高いものだけを公表した方がよい」「B 地震や津波など災害の想定は、可能性のあるものについてはすべて公表した方がよい」という選択肢についても議論が分かれていた。

まとめると、「早めに」「定量的表現にこだわるよりは定性的表現」、「最も頻度の高いものを重視するよりは最も大きな想定を」出した方がよいという方向性であった。

### 4.3 表現技法に関する意見

次に、さまざまな被害想定や地震動予測地図などにおける表現の仕方について、意見を問うた（図 4.4）。「難しい用語が使われてもわからない」という人は 86.6%、「『今後 30 年に一回』という形で表現されても、わかりにくい」という人は 77.9%、「浸水想定が「〇 m」と示されてもイメージがわからない」という人は 60.9%、「『%』を使って確率で表現されても、わかりにくい」という人は 60.1%、「数値で示さなくてもよいと思う」という人は 24.2%であった。先述の知識の質問で見たように地震に関する用語を理解している人は必ずしも多くはない。また多くの人は数値で示してほしいが、必ずしも『今後 30 年に 1 回』などの年確率表現や『%』『m』などの表現だけでは、わかりにくいとも感じている。具体性をもちつつも、より定性的表現を併せ持って説明することが必要なことがわかる。

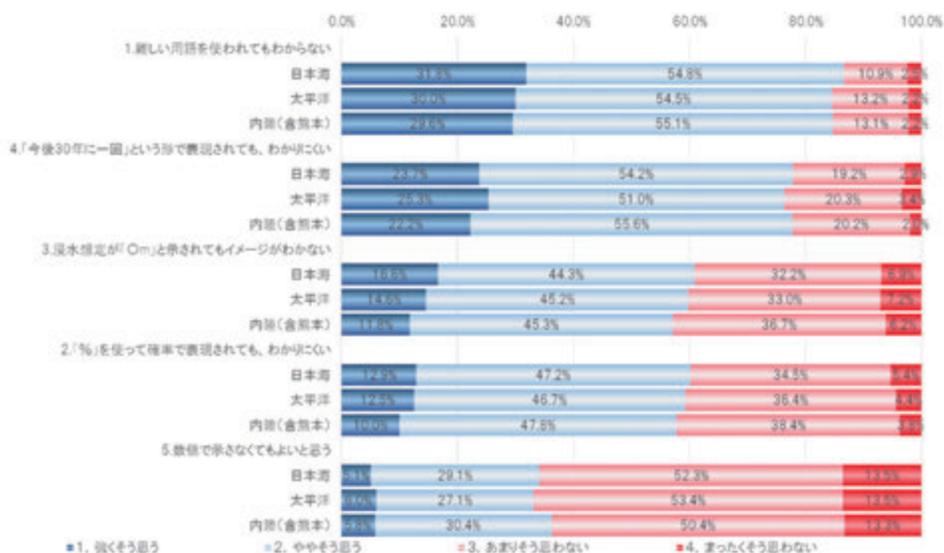


図 4.4 表現技法に関する意見

## 5. 地震動予測地図の影響

地震動予測地図は、太平洋側は赤く、日本海側は黄色く、相対的に日本海側の方のリスクが低いことを示している。その確率認知はどのようなものか、これについても地震に関する予測表現の理解の一つとしてこの影響を聞いた（図 5.1）。日本海側の人で、「日本中どこでも地震が起こる可能性があることがわかる」という人は 90.0 %、「黄色い部分でも地震が来ることがわかる」という人は 85.8 %であった。ある程度、日本のどこでも地震が起こり得るとい地震動予測地図の意図は伝わっているといえる。

ただし、地域別でみた場合の結果として、「場所によって地震発生確率がかなり異なることがわかる」という人は 90.5 %、「黄色い部分には地震が来にくいことがわかる」という人は 72.5 %、「太平洋側では地震が来やすいことがわかる」という人は 90.8 %、「日本海側では地震が来にくいことがわかる」という人は 75.7 %であった。結果的にこの地図は、地域による「差」を強く意識させることとなり、結果として日本海側は地震が発生しにくいという印象を与えてしまうことがわかる。これらは、地域によらず、日本海側、太平洋側、内陸側でほぼ同様の傾向となっており、どの地域に住んでいるかによらず、この地図を見た一般的な傾向であることがわかる。

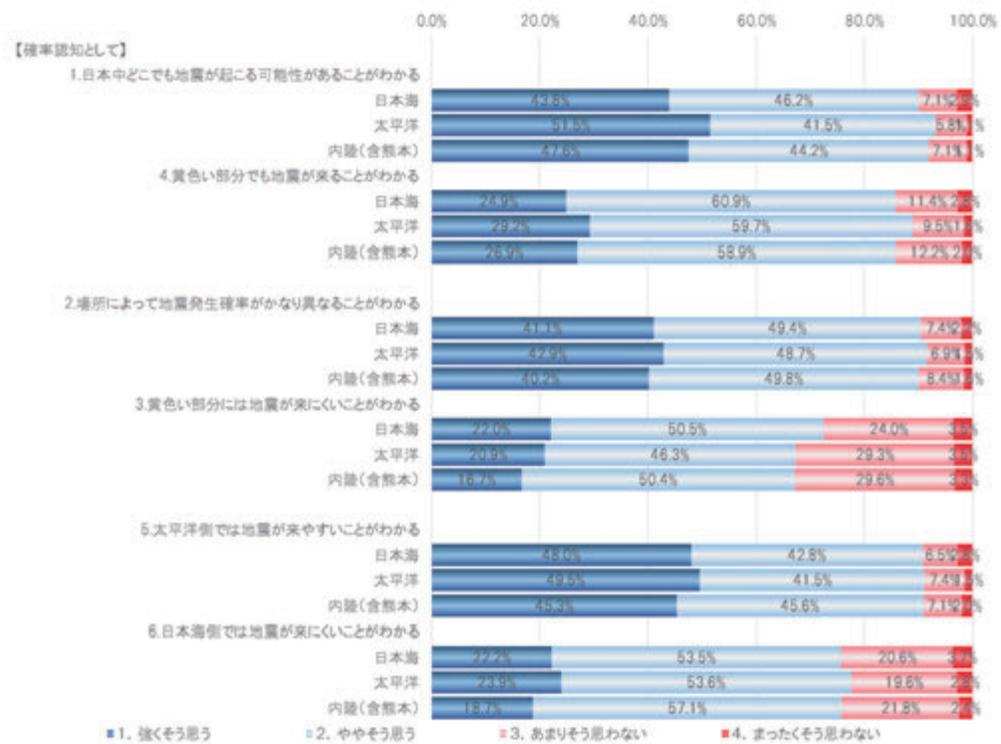


図 5.1 地震動予測地図と発生確率の認知

「地震の発生する確率がわかり、地震対策に有効だと感じる」という人は 83.2 %、「自分が住んでいるところの地震予測がわかる」という人は 86.3 %、「地震予測が可視化され、見ると改めてこわいと感じる」という人は 76.5 %と、この地図に対する一般的（客観的）な認識については、あまり大きな違いはなかった（図 5.2）。

ただし、自分自身に関連する危険／安全に関する認知になると大きく異なっていた。日本海側においては、「自分が住んでいるところはより危険であるとわかる」という人は 44.3 %と相対的に少なく、「自分が住んでいるところはより安全であるとわかる」という人は 57.2 %と相対的に多い。また割合としても多いものの「地震の発生する確率がわかり、不安や恐怖を感じる」との回答も相対的に少ない。結果として、地震動予測地図のような表現は、日本海側の住民にとって、太平洋側や内陸側と比べて、安心する方向への情報として機能してしまっていることがわかる。

なお、対策面でも若干、負の影響がみられる（図 5.3）。「地震が来ることがわかり、対策を考えた（防災グッズを買う、耐震化、避難訓練など）」との回答も 62.0 %であるが、他地域と比べて相対的に低く、具体的な防災対策としても、他地域と比べて負の方向での影響があることがわかった。

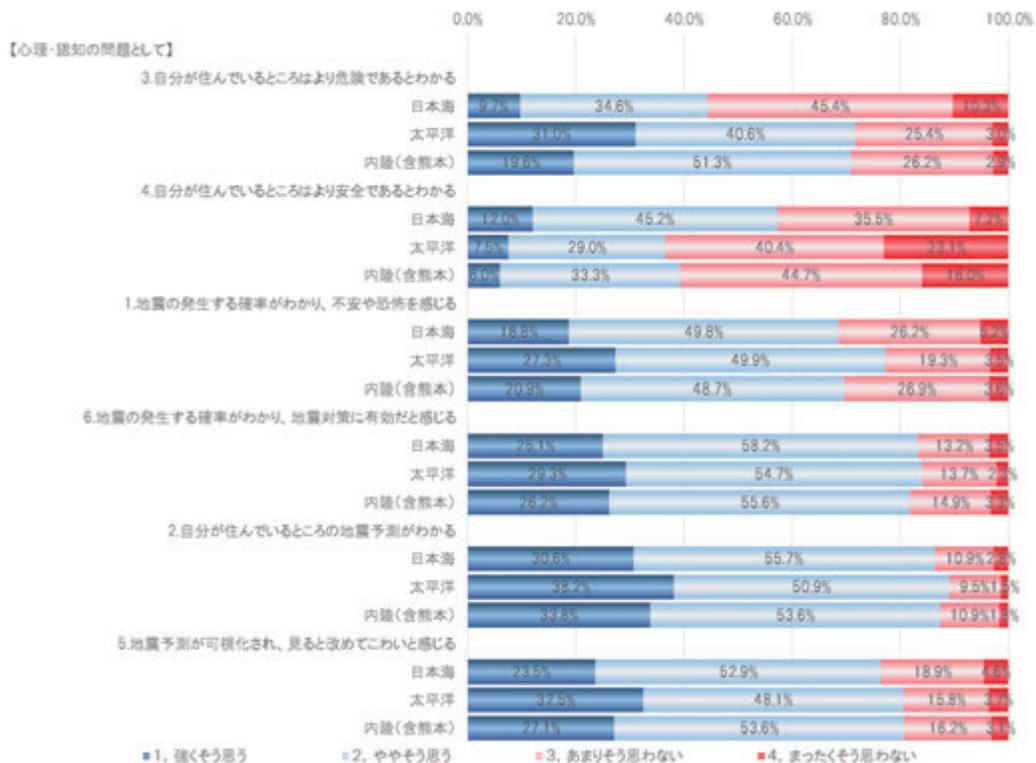


図 5.2 地震動予測地図と心理的影響

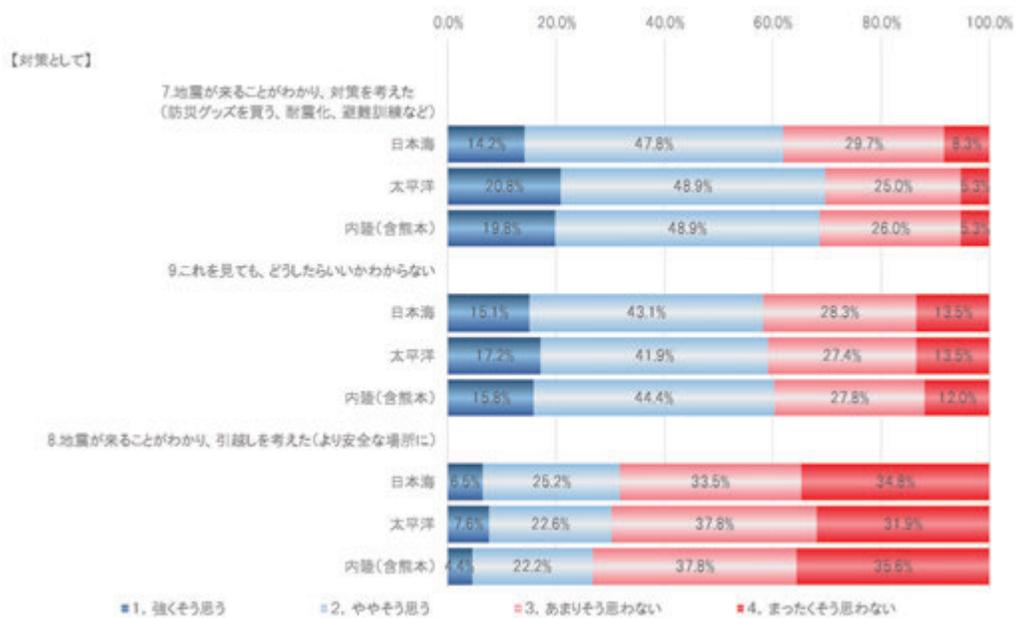


図 5.3 地震動予測地図の対策面での影響

## 6. 被害想定についての意見

最後に想定についての意見について考える。

全体としては、想定については参考程度に考えているという人が多いものの、情報としては意味を持つと考えており、知らなくてもよいと考えている人は少ないことが分かった(図 6.1)。

「機会があれば、家を買うときなどの参考にしようと思う」という人は 70.5%、「もっと詳細な地震災害などの被害想定を知りたい」という人は 75.1%、「あらゆる科学的な地震災害などの被害想定には限界があるので、参考程度に考えている」という人は 73.2%、「想定はおおざっぱな見通しが示されればよいと思う」という人は 51.8%、「そもそも住んでいる土地から簡単には動けないので、あまり意味がないと思う」という人は 51.1%、「地震災害などの被害想定を参考にしたことはない」という人は 51.7%、「別に、地震災害などの被害想定は知らなくてもよい」という人は 22.5%であった。

また、想定についての要望としては、対策やとるべき行動がイメージしにくい、確実性についてよくわからず、被害や対策についてイメージがわきにくいというのが課題であるようである(図 6.2)。

「対策やとるべき行動をイメージしやすいシナリオをつくってほしい」という人は 81.2 %、「地震の発生確率を示されても、この想定がどれくらい確実におこるか、よくわからない」という人は 81.7 %、「地震の発生確率を示されても、自分自身の生活において、どのような被害が生じるか、イメージができない」という人は 75.7 %、「地震の発生確率を示されても、自分自身として、対策として何をすればよいのか、イメージができない」という人は 75.7 %、「津波の最大限の浸水予測を示されても、この想定がどれくらい確実におこるか、よくわからない」という人は 76.5 %、「津波の最大限の浸水予測を示されても、自分自身の生活において、どのような被害が生じるか、イメージができない」という人は 71.4 %、「津波の最大限の浸水予測を示されても、自分自身として、対策として何をすればよいのか、イメージができない」という人は 74.5 %、「様々な想定をする人がでてくるので、よくわからない」という人は 70.0 %、「様々な想定をどう役に立てればいいのかわからない」という人は 68.5 %、「どのように活用すればよいかよくわからない」という人は 59.2 %であった。

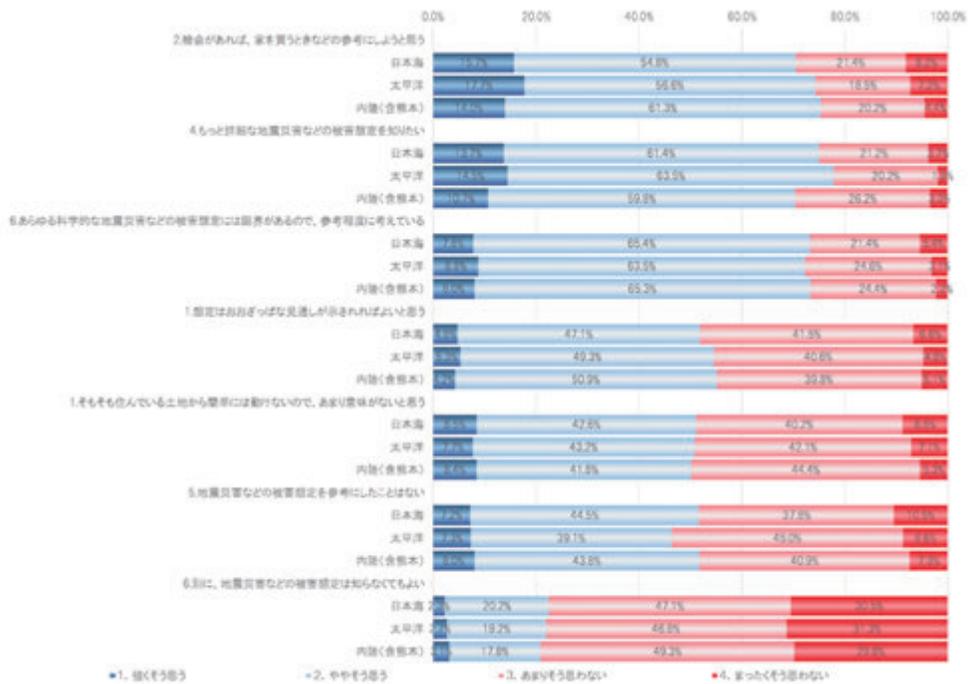


図 6.1 被害想定についての意見

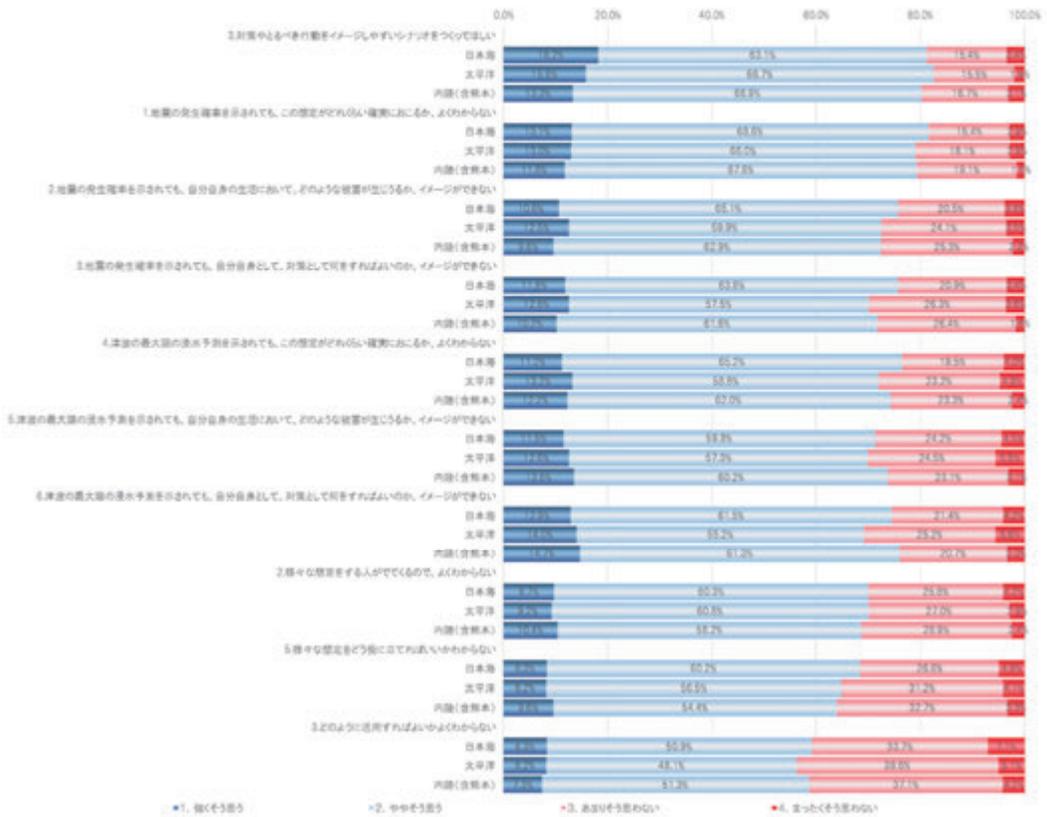


図 6.2 被害想定についての要望

## 7. 結論ならびに今後の課題

本調査結果をまとめると以下の通りである。

- ・日本海側の地震・津波に関する認識として、その発生の可能性や過去の履歴、特性について認知度が低く、想定もあまり周知されていないということが課題である。また発生確率が示されないことなどについては、否定的な人は多くはないことがわかった。
- ・地震の予知や予測についての理解や認識として、様々なことを周知するという以前に地震に関連する用語についての認知率が低い。震度、マグニチュードの違いが判らないという人が約半数いる。また、多くの人々が地震予知の限界を認めつつも、将来的に実現可能なものであると多くの人々が考えている。
- ・想定公表に関する考え方として、いわゆる「最大、最悪の想定」については肯定的であった。頻度の高い想定よりは、最大の想定を求めている。また高い精度を求めているわけではなく可能性のあるものについては公表すべきと考えている人が多かった。
- ・想定表現技法については、定量的表現よりも定性的表現やレベルなどでの情報を求める人が多いこと、年確率表現や「m」「%」という表現のみではわかりにくいという人が多く、現在の情報提供の仕方では課題が多くあることが分かった。
- ・地震動予測地図の影響として、日本海側はより安全であるとの認識に結び付いていた。
- ・災害の被害想定については、全体としては、参考程度に考えているという人が多いものの、情報としては有意義なものと捉えられている。ただし、現状では対策やとるべき行動がイメージしにくい、確実性についてよくわからない、被害や対策についてイメージがわきにくいというのが課題といえる。

# 附属資料 単純集計結果

■地震の知識やイメージ、地震対策についてお伺いします。

Q1.「マグニチュード」「震度」の意味をあらわしているものとして正しいと思うものを、それぞれ一つずつお選びください。わからない場合は、最後の「5. わからない」をお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

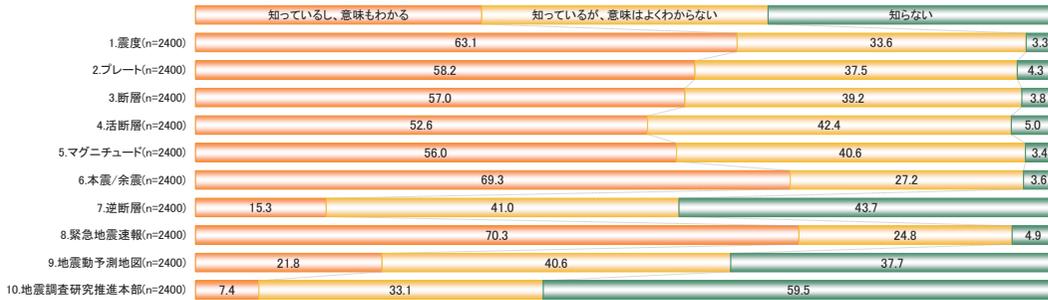
SA



	n	地震の規模	地震の揺れの大きさ	被害の大きさ	揺れている時間の長さ	わからない
1. マグニチュード	2400	2004	147	39	8	202
	100.0	83.5	6.1	1.6	0.3	8.4
2. 震度	2400	153	1996	73	11	167
	100.0	6.4	83.2	3.0	0.5	7.0

Q2. あなたは次の言葉についてご存じですか。あてはまるものについて、それぞれ一つずつお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

SA

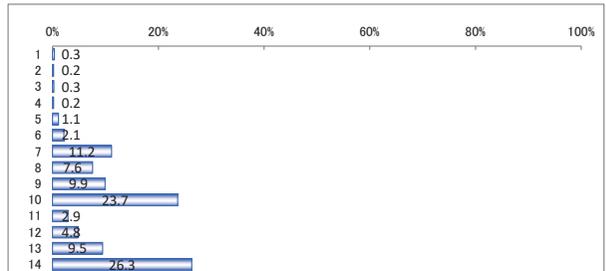


	n	わかる	よく知っているが、意味は	知らない
1. 震度	2400	1514	807	79
	100.0	63.1	33.6	3.3
2. プレート	2400	1396	900	104
	100.0	58.2	37.5	4.3
3. 断層	2400	1368	941	91
	100.0	57.0	39.2	3.8
4. 活断層	2400	1263	1017	120
	100.0	52.6	42.4	5.0
5. マグニチュード	2400	1344	975	81
	100.0	56.0	40.6	3.4
6. 本震/余震	2400	1662	652	86
	100.0	69.3	27.2	3.6
7. 逆断層	2400	366	985	1049
	100.0	15.3	41.0	43.7
8. 緊急地震速報	2400	1686	596	118
	100.0	70.3	24.8	4.9
9. 地震動予測地図	2400	522	974	904
	100.0	21.8	40.6	37.7
10. 地震調査研究推進本部	2400	177	795	1428
	100.0	7.4	33.1	59.5

Q3. 地震の大きさを示す単位として「震度」があります。震度は全部で何段階に分かれていると思いますか。あなたがこれだと思うものを1つだけお選びください。「6弱」や「5強」など強弱も分けて考えてください。

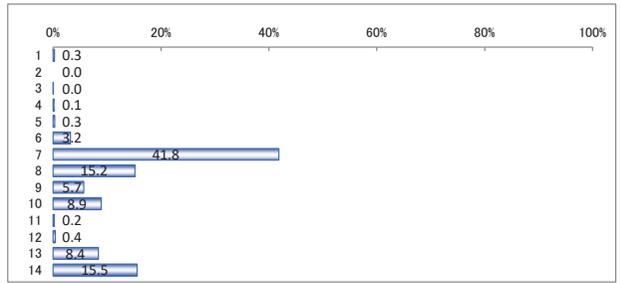
SA

	n	%
全体	2400	100.0
1 1段階	8	0.3
2 2段階	4	0.2
3 3段階	6	0.3
4 4段階	5	0.2
5 5段階	26	1.1
6 6段階	51	2.1
7 7段階	268	11.2
8 8段階	182	7.6
9 9段階	238	9.9
10 10段階	568	23.7
11 11段階	70	2.9
12 12段階	115	4.8
13 13段階	227	9.5
14 わからない	632	26.3



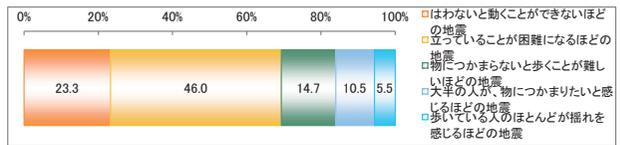
Q4「震度4」「震度7」という言い方をしますが、震度の中で最大のもは以下のうちどれだと思いますか。あなたがこれだと思うものを1つだけお選びください。

	n	%
全体	2400	100.0
1 震度1	6	0.3
2 震度2	0	0.0
3 震度3	1	0.0
4 震度4	3	0.1
5 震度5	7	0.3
6 震度6	77	3.2
7 震度7	1004	41.8
8 震度8	364	15.2
9 震度9	136	5.7
10 震度10	214	8.9
11 震度11	5	0.2
12 震度12	9	0.4
13 震度13	201	8.4
14 わからない	373	15.5



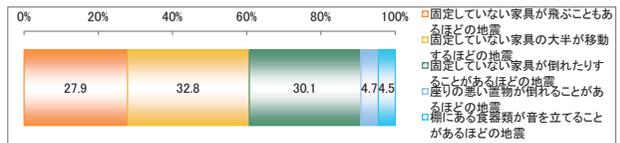
Q5-1.例えば「震度6弱」の地震ときいて、あなたはどれくらいの地震をイメージしますか。【体感】、【室内の様子】、【外の様子】、それぞれについて最もあてはまると思うものを1つずつお選びください。【体感】

	n	%
全体	2400	100.0
1 はわれないと動くことができないほどの地震	560	23.3
2 立っていることが困難になるほどの地震	1104	46.0
3 物につかまらなさと歩くことが難しいほどの地震	352	14.7
4 大半の人が、物につかまりたいと感じるほどの地震	251	10.5
5 歩いている人のほとんどが揺れを感じるほどの地震	133	5.5



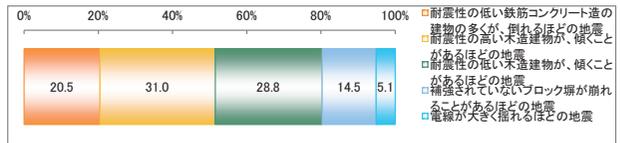
Q5-2.【室内の様子】

	n	%
全体	2400	100.0
1 固定していない家具が飛ぶこともあるほどの地震	670	27.9
2 固定していない家具の大半が移動するほどの地震	786	32.8
3 固定していない家具が倒れたりすることがあるほどの地震	723	30.1
4 座りの悪い置物が倒れることがあるほどの地震	112	4.7
5 棚にある食器類が音を立てることがあるほどの地震	109	4.5



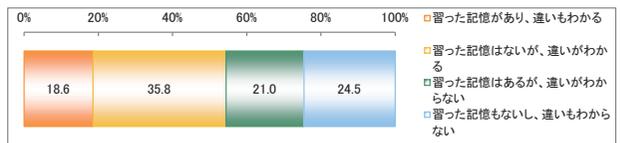
Q5-3.【外の様子】

	n	%
全体	2400	100.0
1 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物の多くが、倒れるほどの地震	491	20.5
2 耐震性の高い木造建物が、傾くことがあるほどの地震	745	31.0
3 耐震性の低い木造建物が、傾くことがあるほどの地震	692	28.8
4 補強されていないブロック塀が倒れることがあるほどの地震	349	14.5
5 電線が大きく揺れるほどの地震	123	5.1



Q6.地震が発生したときに発表されるものには、震度の他にマグニチュードがあげられます。あなたは、震度とマグニチュードの違いについて、学校で習った記憶はありますか。あてはまるものを1つだけお選びください。

	n	%
全体	2400	100.0
1 習った記憶があり、違いもわかる	446	18.6
2 習った記憶はないが、違いがわかる	860	35.8
3 習った記憶はあるが、違いがわからない	505	21.0
4 習った記憶もないし、違いもわからない	589	24.5



Q7.それでは、自然災害の中で、不安を感じる災害は何ですか。次の項目それぞれについて、あてはまるものを1つお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

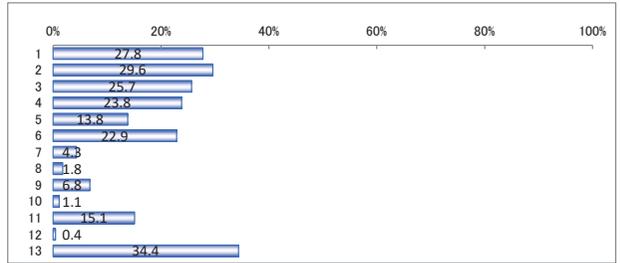
SA



	n	非常に不安を感じる	やや不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	まったく不安を感じない
1.地震	2400 100.0	1385 57.7	780 32.5	156 6.5	53 2.2	26 1.1
2.津波	2400 100.0	828 34.5	662 27.6	363 15.1	371 15.5	176 7.3
3.河川の氾濫	2400 100.0	615 25.6	939 39.1	451 18.8	301 12.5	94 3.9
4.崖崩れや土石流	2400 100.0	585 24.4	852 35.5	475 19.8	355 14.8	133 5.5
5.火山噴火	2400 100.0	533 22.2	638 26.6	518 21.6	499 20.8	212 8.8
6.大雪	2400 100.0	440 18.3	732 30.5	524 21.8	453 18.9	251 10.5
7.竜巻	2400 100.0	534 22.3	819 34.1	592 24.7	353 14.7	102 4.3

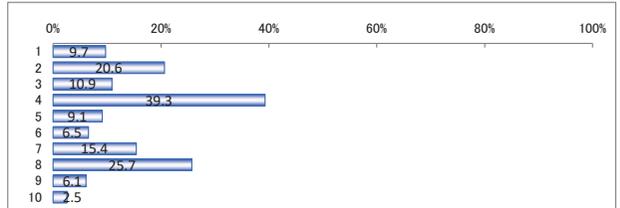
Q8.あなたはふだん、どのような地震対策を行っていますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。(いくつでも)

	n	%
全体	2400	100.0
1 非常用持ち出し袋の準備	666	27.8
2 備蓄	710	29.6
3 家具転倒防止	616	25.7
4 地震保険への加入	571	23.8
5 出入り口の確保	331	13.8
6 避難場所の確認	549	22.9
7 ガラス飛散防止	104	4.3
8 ブロック塙転倒防止	42	1.8
9 耐震補強	163	6.8
10 転居	26	1.1
11 災害に備えた家族の話し合い	362	15.1
12 その他	10	0.4
13 地震対策は行っていない	825	34.4



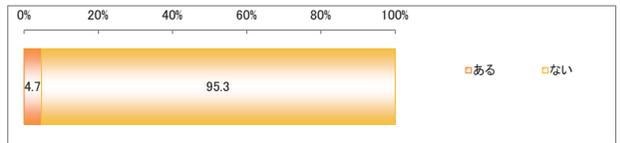
Q8-1.地震対策を行っていない理由を教えてください。(いくつでも)

	n	%
全体	825	100.0
1 十分な時間がないから	80	9.7
2 面倒だから	170	20.6
3 必ずしも自分が大きな地震の被害にあうとは思わないから	90	10.9
4 地震対策をしようと思いつつ、なんとなくできていない	324	39.3
5 自分にとって、地震対策の優先順位が低いから	75	9.1
6 地震対策よりも他にやるべきことが多いから	54	6.5
7 地震対策をするきっかけがつかめないから	127	15.4
8 十分なお金がないから	212	25.7
9 地震対策は個人ではなく、国や自治体、その他の組織がやるべきだと思う	50	6.1
10 その他	21	2.5



Q9.あなたは、生まれてから、地震がきっかけとなり、避難所に1泊以上滞在したことがありますか。

	n	%
全体	2400	100.0
1 ある	112	4.7
2 ない	2288	95.3



Q9-1.生まれてから、地震がきっかけとなり、避難所に1泊以上滞在したことがある方にお伺いします。その時期と場所について教えてください。※複数回、地震がきっかけで避難所に滞在したことがある方は、直近の事についてお教えてください。時期：\_\_年

	値
全体	112
平均値	2007.07
最小値	1964.00
最大値	2016.00

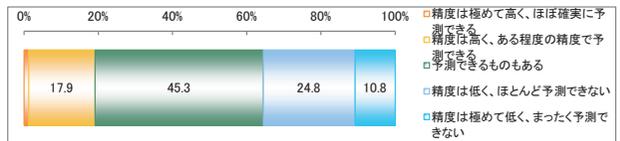
Q9-1.生まれてから、地震がきっかけとなり、避難所に1泊以上滞在したことがある方にお伺いします。その時期と場所について教えてください。※複数回、地震がきっかけで避難所に滞在したことがある方は、直近の事についてお教えてください。\_\_月頃 ※半角数字でご記入ください

	値
全体	112
平均値	3.62
最小値	1.00
最大値	12.00

■地震の予測についてお伺いします。

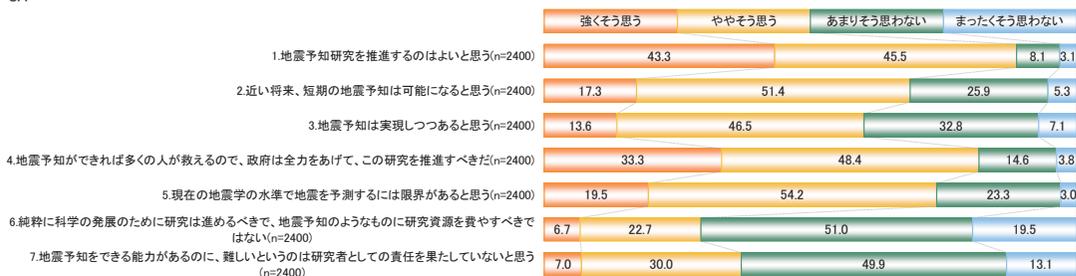
Q10.あなたは、現在の地震学・科学による地震動の事前の予測は可能だと思いますか。あなたの主観で構いませんので、あてはまるものを1つだけお選びください。

	n	%
全体	2400	100.0
1 精度は極めて高く、ほぼ確実に予測できる	30	1.3
2 精度は高く、ある程度の精度で予測できる	429	17.9
3 予測できるものもある	1088	45.3
4 精度は低く、ほとんど予測できない	594	24.8
5 精度は極めて低く、まったく予測できない	259	10.8



Q11.地震予知についてどう思いますか。それぞれ、あてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

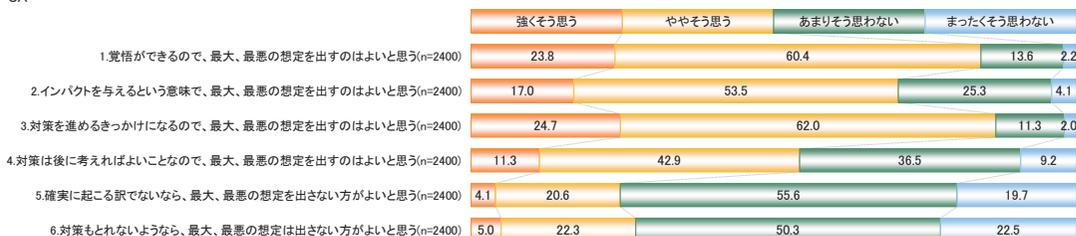
SA



	n	強くそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1.地震予知研究を推進するのはよいと思う	2400 100.0	1039 43.3	1091 45.5	195 8.1	75 3.1
2.近い将来、短期の地震予知は可能になると思う	2400 100.0	416 17.3	1234 51.4	622 25.9	128 5.3
3.地震予知は実現しつつあると思う	2400 100.0	327 13.6	1115 46.5	787 32.8	171 7.1
4.地震予知ができれば多くの人が救えるので、政府は全力をあげて、この研究を推進すべきだ	2400 100.0	799 33.3	1161 48.4	350 14.6	90 3.8
5.現在の地震学の水準で地震を予測するには限界があると思う	2400 100.0	469 19.5	1300 54.2	560 23.3	71 3.0
6.純粋に科学の発展のために研究を進めるべきで、地震予知のようなものに研究資源を費やすべきではない	2400 100.0	161 6.7	545 22.7	1225 51.0	469 19.5
7.地震予知をできる能力があるのに、難しいというのは研究者としての責任を果たしていない	2400 100.0	168 7.0	720 30.0	1197 49.9	315 13.1

Q12.想定外をなくすために、最大、最悪の想定を行うことが多くなりました。あなたは、この最大、最悪の想定を出すことについて、どう思いますか。それぞれ、あてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

SA



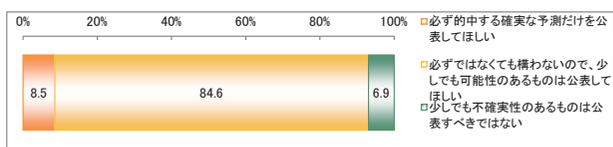
	n	強くそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1.覚悟ができるので、最大、最悪の想定を出すのはよいと思う	2400 100.0	571 23.8	1450 60.4	327 13.6	52 2.2
2.インパクトを与えるという意味で、最大、最悪の想定を出すのはよいと思う	2400 100.0	408 17.0	1285 53.5	608 25.3	99 4.1
3.対策を進めるきっかけになるので、最大、最悪の想定を出すのはよいと思う	2400 100.0	593 24.7	1487 62.0	272 11.3	48 2.0
4.対策は後に考えればよいことなので、最大、最悪の想定を出すのはよいと思う	2400 100.0	272 11.3	1030 42.9	877 36.5	221 9.2
5.確実に起こる訳でないなら、最大、最悪の想定を出さない方がよいと思う	2400 100.0	98 4.1	494 20.6	1335 55.6	473 19.7
6.対策もとれないようなら、最大、最悪の想定は出さない方がよいと思う	2400 100.0	119 5.0	534 22.3	1208 50.3	539 22.5

■地震動予測地図や被害想定などの表現・情報公開についてお伺いします。

Q13.地震の予測の精度と公表についてお伺いします。あてはまるものを1つだけお選びください。

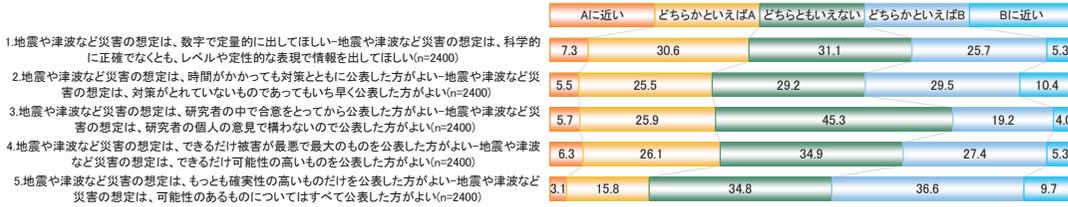
SA

	n	%
全体	2400	100.0
1.必ず的中する確実な予測だけを公表してほしい	205	8.5
2.必ずではなくても構わないので、少しでも可能性のあるものは公表してほしい	2030	84.6
3.少しでも不確実性のあるものは公表すべきではない	165	6.9



Q14.あなたは、次のAとBのどちらの意見に近いですか。それぞれ、あてはまるものを1つだけお選びください。(それぞれひとつだけ)

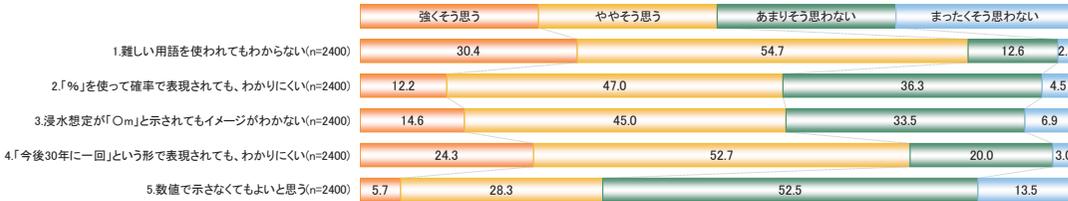
SA



	n	Aに近い	どちらかといえばA	どちらともいえない	どちらかといえばB	Bに近い
1.地震や津波など災害の想定は、数字で定量的に出してほしい-地震や津波など災害の想定は、科学的に正確でなくとも、レベルや定性的な表現で情報を出してほしい(n=2400)	2400 100.0	176 7.3	734 30.6	746 31.1	617 25.7	127 5.3
2.地震や津波など災害の想定は、時間がかかっても対策とともに公表した方がよい-地震や津波など災害の想定は、対策がとれていないものであっても早く公表した方がよい(n=2400)	2400 100.0	131 5.5	611 25.5	701 29.2	707 29.5	250 10.4
3.地震や津波など災害の想定は、研究者の中で合意をとってから公表した方がよい-地震や津波など災害の想定は、研究者の個人の見解で構わないので公表した方がよい(n=2400)	2400 100.0	136 5.7	621 25.9	1086 45.3	461 19.2	96 4.0
4.地震や津波など災害の想定は、できるだけ被害が最悪で最大のものを公表した方がよい-地震や津波など災害の想定は、できるだけ可能性の高いものを公表した方がよい(n=2400)	2400 100.0	152 6.3	627 26.1	837 34.9	657 27.4	127 5.3
5.地震や津波など災害の想定は、もっとも確実性の高いものだけを公表した方がよい-地震や津波など災害の想定は、可能性のあるものについてはすべて公表した方がよい(n=2400)	2400 100.0	75 3.1	379 15.8	836 34.8	878 36.6	232 9.7

Q15.さまざまな被害想定や地震動予測地図などの表現の仕方についてそれぞれ、あてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

SA

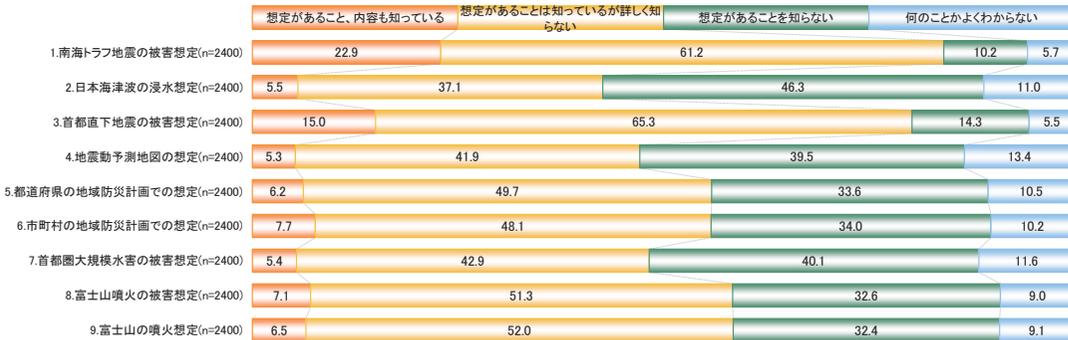


	n	強く思う	やや思う	あまりそう思わない	まったく思わない
1.難しい用語が使われてもわからない	2400 100.0	730 30.4	1313 54.7	302 12.6	55 2.3
2.「%」を使って確率で表現されても、わかりにくい	2400 100.0	292 12.2	1129 47.0	870 36.3	109 4.5
3.浸水想定が「Om」と示されてもイメージがわからない	2400 100.0	351 14.6	1080 45.0	803 33.5	166 6.9
4.「今後30年に一回」という形で表現されても、わかりにくい	2400 100.0	583 24.3	1265 52.7	480 20.0	72 3.0
5.数値で示さなくてもよいと思う	2400 100.0	137 5.7	678 28.3	1261 52.5	324 13.5

■被害想定についてお伺いします。

Q16.政府、都道府県、市町村は被害が考えられる災害について想定をしています。あなたは以下の1~9について想定があることを知っていますか。あてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

SA

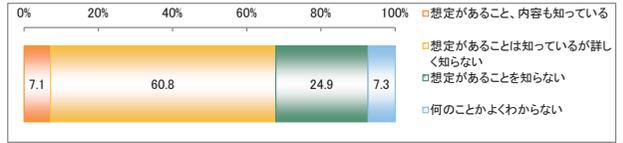


	n	も想定があること、内容	知っているが詳しく知らない	想定があることを知らない	何のこともよくわからない
1.南海トラフ地震の被害想定	2400 100.0	550 22.9	1468 61.2	245 10.2	137 5.7
2.日本海津波の浸水想定	2400 100.0	133 5.5	890 37.1	1112 46.3	265 11.0
3.首都直下地震の被害想定	2400 100.0	360 15.0	1566 65.3	342 14.3	132 5.5
4.地震動予測地図の想定	2400 100.0	126 5.3	1005 41.9	948 39.5	321 13.4
5.都道府県の地域防災計画での想定	2400 100.0	149 6.2	1192 49.7	807 33.6	252 10.5
6.市町村の地域防災計画での想定	2400 100.0	184 7.7	1155 48.1	817 34.0	244 10.2
7.首都圏大規模水害の被害想定	2400 100.0	129 5.4	1029 42.9	963 40.1	279 11.6
8.富士山噴火の被害想定	2400 100.0	170 7.1	1232 51.3	782 32.6	216 9.0
9.富士山の噴火想定	2400 100.0	156 6.5	1248 52.0	777 32.4	219 9.1

Q17-1.政府では大規模な災害について、また都道府県ではそれぞれの地域の災害について、防災の計画をたてる前提として、地域の災害被害の想定を行っています。それぞれあてはまるものを1つだけお選びください。まず、あなたは、被害想定をご存じでしたか。

SA

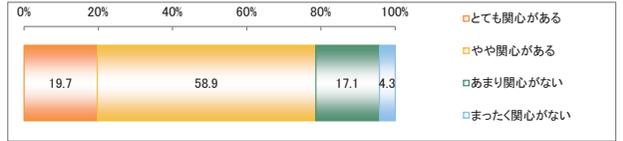
	n	%
全体	2400	100.0
1 想定があること、内容も知っている	171	7.1
2 想定があることは知っているが詳しく知らない	1458	60.8
3 想定があることを知らない	597	24.9
4 何のこともよくわからない	174	7.3



Q17-2.では、あなたは被害想定に関心はありますか。

SA

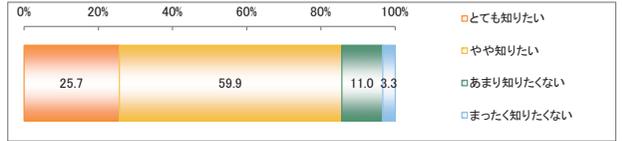
	n	%
全体	2400	100.0
1 とても関心がある	473	19.7
2 やや関心がある	1414	58.9
3 あまり関心がない	411	17.1
4 まったく関心がない	102	4.3



Q17-3.では、あなたは被害想定を知りたいと思いますか。

SA

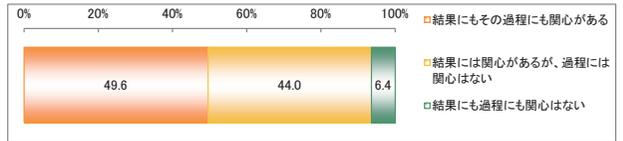
	n	%
全体	2400	100.0
1 とても知りたい	617	25.7
2 やや知りたい	1438	59.9
3 あまり知りたくない	265	11.0
4 まったく知りたくない	80	3.3



Q17-4.では、あなたはこれらの被害想定の結果や想定のプロセスについて、関心はありますか。

SA

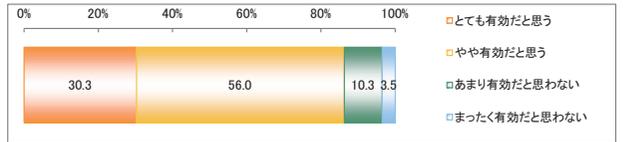
	n	%
全体	2400	100.0
1 結果にもその過程にも関心がある	1190	49.6
2 結果には関心があるが、過程には関心はない	1056	44.0
3 結果にも過程にも関心はない	154	6.4



Q17-5.これら被害想定は、災害対策という面であなたにとって有効だと思いますか。

SA

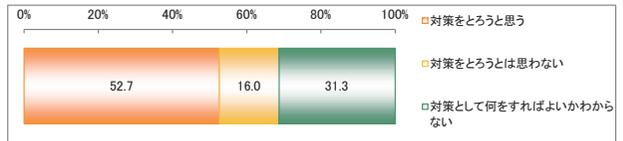
	n	%
全体	2400	100.0
1 とても有効だと思う	728	30.3
2 やや有効だと思う	1343	56.0
3 あまり有効だと思わない	246	10.3
4 まったく有効だと思わない	83	3.5



Q17-6.あなたはこれら被害想定を知って、何か対策をどう思いますか。

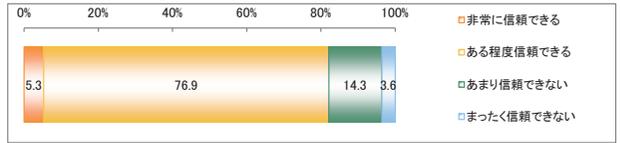
SA

	n	%
全体	2400	100.0
1 対策をどう思う	1264	52.7
2 対策をどうとは思わない	385	16.0
3 対策として何をすればよいかわからない	751	31.3



Q17-7.あなたはこれらの被害想定について、信頼できると思いますか。

	n	%
全体	2400	100.0
1.非常に信頼できる	127	5.3
2.ある程度信頼できる	1845	76.9
3.あまり信頼できない	342	14.3
4.まったく信頼できない	86	3.6



Q18.政府では大規模な災害について、また都道府県ではそれぞれの地域の災害について、防災の計画をたてる前提として、地震災害などの被害想定を行っています。あなたはこの地震災害などの被害想定についてどう思いますか。あてはまるものをお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)



	n	強く思う	やや思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1.そもそも住んでいる土地から簡単には動けないので、あまり意味がない	2400	193	1026	1008	173
	100.0	8.0	42.8	42.0	7.2
2.機会があれば、家を買うときなどの参考にしようと思う	2400	395	1368	470	167
	100.0	16.5	57.0	19.6	7.0
3.どのように活用すればよいかよくわからない	2400	194	1187	888	131
	100.0	8.1	49.5	37.0	5.5
4.もっと詳細な地震災害などの被害想定を知りたい	2400	325	1493	518	64
	100.0	13.5	62.2	21.6	2.7
5.地震災害などの被害想定を参考にしたことはない	2400	178	994	1015	213
	100.0	7.4	41.4	42.3	8.9
6.あらゆる科学的な地震災害などの被害想定には限界があるので、参考程度に考えている	2400	201	1545	569	85
	100.0	8.4	64.4	23.7	3.5

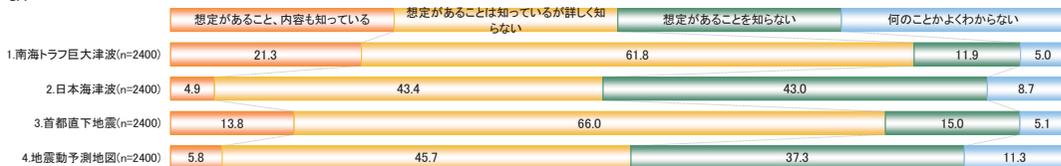
Q19.地震災害などの被害想定について、あなたはどう思いますか。あてはまるものをお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)



	n	強く思う	やや思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1.想定はおおざっぱな見通しが表示されればいいと思う	2400	119	1176	977	128
	100.0	5.0	49.0	40.7	5.3
2.様々な想定をする人がでてくるので、よくわからない	2400	230	1445	649	76
	100.0	9.6	60.2	27.0	3.2
3.対策やとるべき行動をイメージしやすいシナリオをつくってほしい	2400	384	1578	377	61
	100.0	16.0	65.8	15.7	2.5
4.大きな津波がきたときはあきらめている	2400	180	794	1023	403
	100.0	7.5	33.1	42.6	16.8
5.様々な想定をどう役に立てればいいのかわからない	2400	204	1371	725	100
	100.0	8.5	57.1	30.2	4.2
6.別に、地震災害などの被害想定は知らなくてもよい	2400	64	461	1136	739
	100.0	2.7	19.2	47.3	30.8

Q20-1.地震災害などの被害想定や地震動予測地図についてお伺いします。1.【南海トラフ巨大地震】2012年、政府は、南海トラフで発生する巨大地震について、どのような地震・津波が発生するかについてモデルを示し、それを受け、現在、各県が災害の被害想定を公表(もしくは公表しよう)としています。2.【日本海津波】2014年、政府は、日本海側の津波について、どのような地震・津波が発生するかについてモデルを示し、それを受け、現在、各県が災害の被害想定を公表(もしくは公表しよう)としています。3.【首都直下地震】首都直下地震について、政府がモデルを公表し、国や東京都が災害の被害想定を公表しています。4.【地震動予測地図】阪神・淡路大震災後、政府は地震動予測地図というものを示し、全国の地震の発生確率を公表しています。それぞれ、あてはまるものを1つだけお選びください。まず、あなたは、これら地震災害などの被害想定や地震動予測地図をご存じでしたか。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

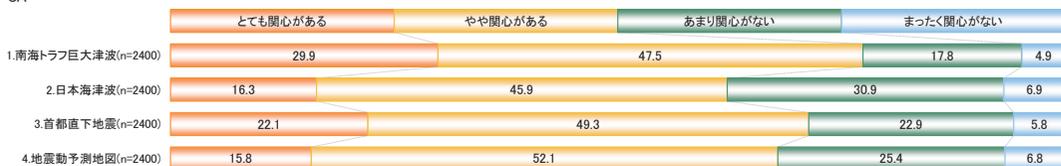
SA



	n	も想定がついていること、内容	いて想定があるが詳しく知らない	ない想定があることを知らない	ないのこともよくわからない
1.南海トラフ巨大地震	2400	512	1482	286	120
	100.0	21.3	61.8	11.9	5.0
2.日本海津波	2400	118	1042	1031	209
	100.0	4.9	43.4	43.0	8.7
3.首都直下地震	2400	332	1585	361	122
	100.0	13.8	66.0	15.0	5.1
4.地震動予測地図	2400	139	1096	894	271
	100.0	5.8	45.7	37.3	11.3

Q20-2.では、あなたはこれら地震災害などの被害想定や地震動予測地図に関心はありますか。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

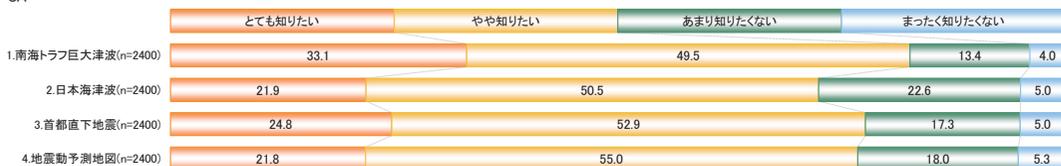
SA



	n	とても関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	まったく関心がない
1.南海トラフ巨大地震	2400	718	1139	426	117
	100.0	29.9	47.5	17.8	4.9
2.日本海津波	2400	392	1101	742	165
	100.0	16.3	45.9	30.9	6.9
3.首都直下地震	2400	530	1182	549	139
	100.0	22.1	49.3	22.9	5.8
4.地震動予測地図	2400	378	1251	609	162
	100.0	15.8	52.1	25.4	6.8

Q20-3.では、あなたはこれら地震災害などの被害想定や地震動予測地図を知りたいと思いますか。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

SA



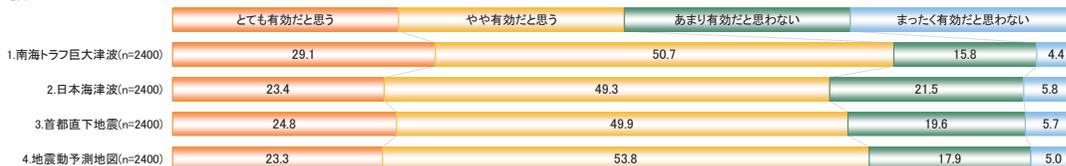
	n	とても知りたい	やや知りたい	あまり知りたくない	まったく知りたくない
1.南海トラフ巨大地震	2400	795	1188	322	95
	100.0	33.1	49.5	13.4	4.0
2.日本海津波	2400	525	1213	542	120
	100.0	21.9	50.5	22.6	5.0
3.首都直下地震	2400	594	1270	415	121
	100.0	24.8	52.9	17.3	5.0
4.地震動予測地図	2400	523	1320	431	126
	100.0	21.8	55.0	18.0	5.3

Q20-4.では、あなたはこれら地震災害などの被害想定や地震動予測地図の結果や発生確率などの推定の過程について、関心はありますか。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)  
SA



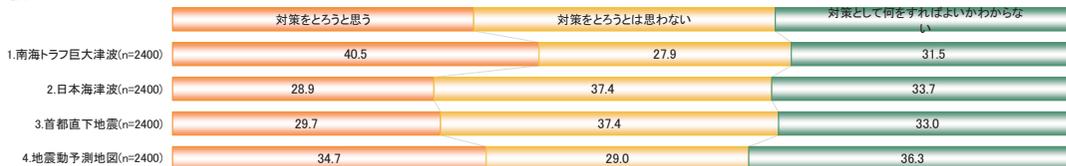
	n	結果にもその過程にも関心がある	結果には関心があるが、過程には関心はない	結果にも過程にも関心はない
1.南海トラフ巨大津波	2400 100.0	1256 52.3	964 40.2	180 7.5
2.日本海津波	2400 100.0	987 41.1	1155 48.1	258 10.8
3.首都直下地震	2400 100.0	1055 44.0	1137 47.4	208 8.7
4.地震動予測地図	2400 100.0	962 40.1	1190 49.6	248 10.3

Q20-5.これら地震災害などの被害想定や地震動予測地図は、災害対策という面であなたにとって有効だと思いますか。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)  
SA



	n	とても有効だと思う	やや有効だと思う	あまり有効だと思わない	まったく有効だと思わない
1.南海トラフ巨大津波	2400 100.0	698 29.1	1217 50.7	379 15.8	106 4.4
2.日本海津波	2400 100.0	562 23.4	1183 49.3	515 21.5	140 5.8
3.首都直下地震	2400 100.0	595 24.8	1198 49.9	471 19.6	136 5.7
4.地震動予測地図	2400 100.0	558 23.3	1292 53.8	429 17.9	121 5.0

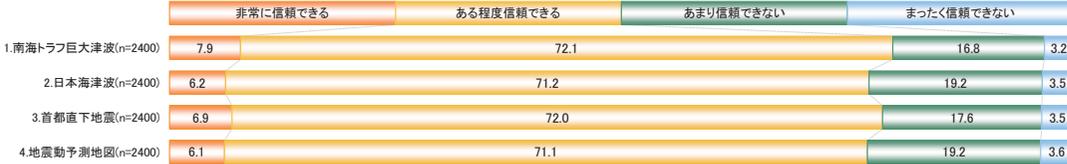
Q20-6.あなたは、これら地震災害などの被害想定や地震動予測地図を知って、何か対策をどう思いますか。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)  
SA



	n	対策をどう思う	対策をどう思わない	対策として何をすればよいかわからない
1.南海トラフ巨大津波	2400 100.0	973 40.5	670 27.9	757 31.5
2.日本海津波	2400 100.0	694 28.9	897 37.4	809 33.7
3.首都直下地震	2400 100.0	712 29.7	897 37.4	791 33.0
4.地震動予測地図	2400 100.0	833 34.7	697 29.0	870 36.3

Q20-7.あなたは、これら地震災害などの被害想定や地震動予測地図について、信頼できると思いますか。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

SA



	n	非常に信頼できる	ある程度信頼できる	あまり信頼できない	まったく信頼できない
1.南海トラフ巨大津波	2400 100.0	189 7.9	1731 72.1	403 16.8	77 3.2
2.日本海津波	2400 100.0	149 6.2	1708 71.2	460 19.2	83 3.5
3.首都直下地震	2400 100.0	166 6.9	1727 72.0	423 17.6	84 3.5
4.地震動予測地図	2400 100.0	146 6.1	1707 71.1	460 19.2	87 3.6

Q21.あなたは、これら地震災害などの被害想定や地震動予測地図についてどう思いますか。あてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

SA

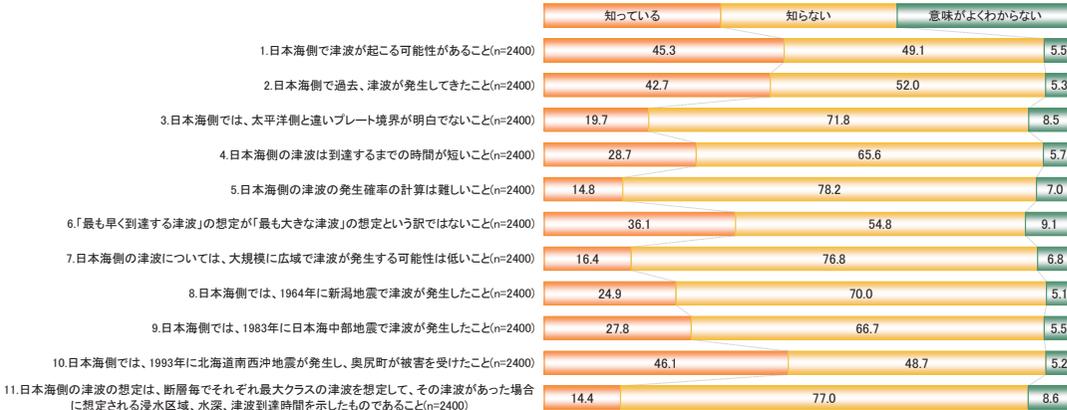


	n	強くそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1.地震の発生確率を示されても、この想定がどれくらい確実におこるか、よくわからない	2400 100.0	307 12.8	1608 67.0	421 17.5	64 2.7
2.地震の発生確率を示されても、自分自身の生活において、どのような被害が生じるか、イメージができない	2400 100.0	275 11.5	1485 61.9	560 23.3	80 3.3
3.地震の発生確率を示されても、自分自身として、対策として何をすればよいのか、イメージができない	2400 100.0	287 12.0	1439 60.0	597 24.9	77 3.2
4.津波の最大限の浸水予測を示されても、この想定がどれくらい確実におこるか、よくわからない	2400 100.0	300 12.5	1467 61.1	534 22.3	99 4.1
5.津波の最大限の浸水予測を示されても、自分自身の生活において、どのような被害が生じるか、イメージができない	2400 100.0	300 12.5	1405 58.5	580 24.2	115 4.8
6.津波の最大限の浸水予測を示されても、自分自身として、対策として何をすればよいのか、イメージができない	2400 100.0	332 13.8	1394 58.1	559 23.3	115 4.8

■ 日本海の津波についてお伺いします。

Q22.あなたは日本海側の津波について次のことを知っていますか。それぞれ、あてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

SA

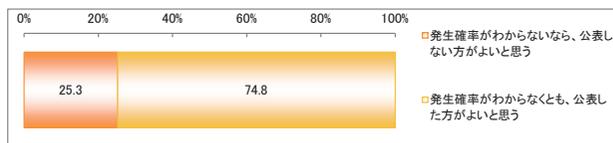


	n	知っている	知らない	意味がよくわからない
1.日本海側で津波が起こる可能性があること	2400 100.0	1088 45.3	1179 49.1	133 5.5
2.日本海側で過去、津波が発生してきたこと	2400 100.0	1025 42.7	1249 52.0	126 5.3
3.日本海側では、太平洋側と違いプレート境界が明白でないこと	2400 100.0	473 19.7	1724 71.8	203 8.5
4.日本海側の津波は到達するまでの時間が短いこと	2400 100.0	689 28.7	1574 65.6	137 5.7
5.日本海側の津波の発生確率の計算は難しいこと	2400 100.0	356 14.8	1876 78.2	168 7.0
6.「最も早く到達する津波」の想定が「最も大きな津波」の想定という訳で	2400 100.0	867 36.1	1315 54.8	218 9.1
7.日本海側の津波については、大規模に広域で津波が発生する可能性	2400 100.0	394 16.4	1843 76.8	163 6.8
8.日本海側では、1964年に新潟地震で津波が発生したこと	2400 100.0	597 24.9	1680 70.0	123 5.1
9.日本海側では、1983年に日本海中部地震で津波が発生したこと	2400 100.0	667 27.8	1600 66.7	133 5.5
10.日本海側では、1993年に北海道南西沖地震が発生し、奥尻町が被害	2400 100.0	1106 46.1	1169 48.7	125 5.2
11.日本海側の津波の想定は、断層毎でそれぞれ最大クラスの津波を想	2400 100.0	346 14.4	1848 77.0	206 8.6

Q23.日本海側の津波は過去の履歴がはっきりとわかっていないので発生確率(今後〇〇年に1回、〇〇年に〇%)という形で示すことはできません。あなたはこのことについてどう思いますか。あてはまるものを1つだけお選びください。

SA

	n	%
全体	2400	100.0
1.発生確率がわからないなら、公表しない方がよいと思う	606	25.3
2.発生確率がわからなくとも、公表した方がよいと思う	1794	74.8



Q25.あなたは日本海側の津波に関して、次のことについてどう思いますか。それぞれ、あてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

SA

	強くそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1.日本海側の津波で巨大想定を出すことはいいことだと思う(n=2400)	16.4	65.3	15.7	2.6
2.日本海でも太平洋側と同規模の巨大な津波がくる可能性はほぼない(n=2400)	4.8	29.8	53.6	11.9
3.日本海側は地震の規模に比べて津波が高く、津波到達までの時間が短い(n=2400)	15.5	60.0	21.9	2.6
4.緊急時に沿岸部に救助に行くべきではない(n=2400)	31.7	47.5	17.6	3.3

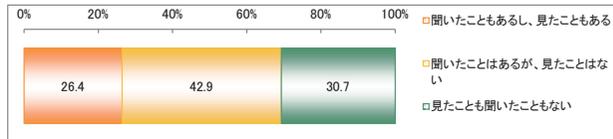
	n	強くそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1.日本海側の津波で巨大想定を出すことはいいことだと思う	2400 100.0	393 16.4	1568 65.3	377 15.7	62 2.6
2.日本海でも太平洋側と同規模の巨大な津波がくる可能性はほぼない	2400 100.0	115 4.8	714 29.8	1286 53.6	285 11.9
3.日本海側は地震の規模に比べて津波が高く、津波到達までの時間が短い	2400 100.0	373 15.5	1439 60.0	525 21.9	63 2.6
4.緊急時に沿岸部に救助に行くべきではない	2400 100.0	761 31.7	1139 47.5	422 17.6	78 3.3

■地震動予測地図についてお伺いします。

Q26.あなたは「地震動予測地図」というものを見開きましたか。

SA

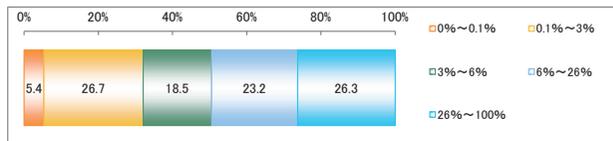
	n	%
全体	2400	100.0
1.聞いたこともあるし、見たこともある	634	26.4
2.聞いたことはあるが、見たことはない	1030	42.9
3.見たことも聞いたこともない	736	30.7



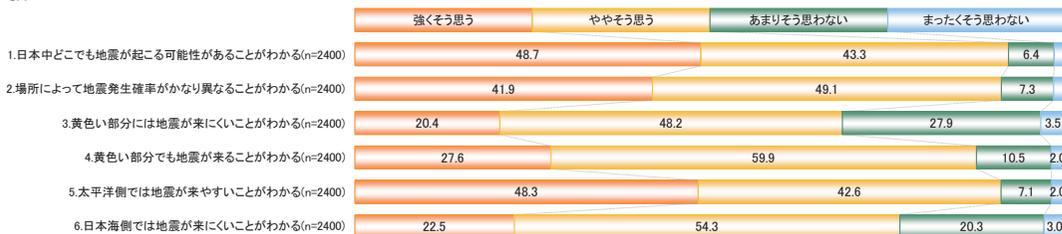
Q27.あなたの家のある場所の色は以下のどれですか。

SA

	n	%
全体	2400	100.0
1.0%~0.1%	129	5.4
2.0.1%~3%	641	26.7
3.3%~6%	443	18.5
4.6%~26%	557	23.2
5.26%~100%	630	26.3

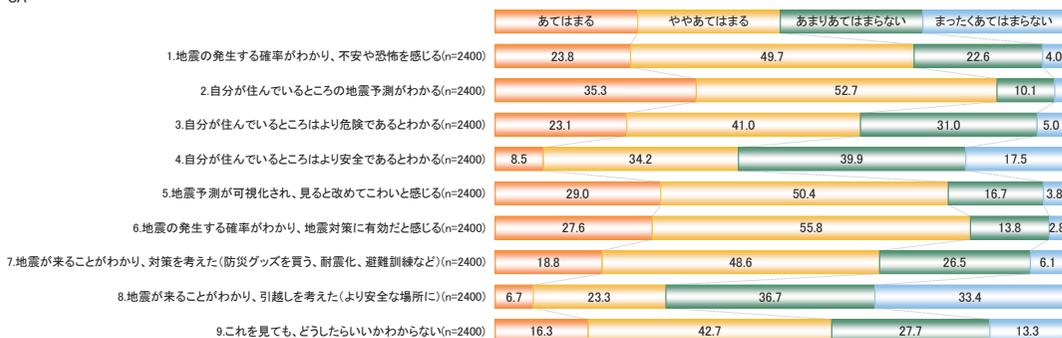


Q28.地震動予測地図を見て、地震の起こりやすさについて、あなたは次の項目についてどう思いますか。それぞれについて最もあてはまると思うものを1つずつお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) SA



	n	強く思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1.日本中どこでも地震が起こる可能性があることがわかる	2400	1169	1039	154	38
	100.0	48.7	43.3	6.4	1.6
2.場所によって地震発生確率がかなり異なることがわかる	2400	1006	1178	176	40
	100.0	41.9	49.1	7.3	1.7
3.黄色い部分には地震が来にくいことがわかる	2400	490	1157	670	83
	100.0	20.4	48.2	27.9	3.5
4.黄色い部分でも地震が来ることがわかる	2400	663	1437	252	48
	100.0	27.6	59.9	10.5	2.0
5.太平洋側では地震が来やすいことがわかる	2400	1160	1023	170	47
	100.0	48.3	42.6	7.1	2.0
6.日本海側では地震が来にくいことがわかる	2400	539	1302	487	72
	100.0	22.5	54.3	20.3	3.0

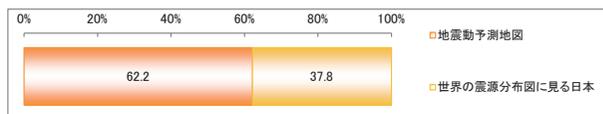
Q29.地震動予測地図を見て、あなた自身の捉え方として、次の項目についてどう思いますか。それぞれについて最もあてはまると思うものを1つずつお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) SA



	n	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1.地震の発生する確率がわかり、不安や恐怖を感じる	2400	571	1192	542	95
	100.0	23.8	49.7	22.6	4.0
2.自分が住んでいるところの地震予測がわかる	2400	847	1265	243	45
	100.0	35.3	52.7	10.1	1.9
3.自分が住んでいるところはより危険であるとわかる	2400	554	984	743	119
	100.0	23.1	41.0	31.0	5.0
4.自分が住んでいるところはより安全であるとわかる	2400	203	821	957	419
	100.0	8.5	34.2	39.9	17.5
5.地震予測が可視化され、見ると改めてこわいと感じる	2400	697	1210	401	92
	100.0	29.0	50.4	16.7	3.8
6.地震の発生する確率がわかり、地震対策に有効だと感じる	2400	662	1339	331	68
	100.0	27.6	55.8	13.8	2.8
7.地震が来ることがわかり、対策を考えた(防災グッズを買う、耐震化、避難訓練など)	2400	451	1167	635	147
	100.0	18.8	48.6	26.5	6.1
8.地震が来ることがわかり、引越しを考えた(より安全な場所に)	2400	161	558	880	801
	100.0	6.7	23.3	36.7	33.4
9.これを見ても、どうしたらいいかわからない	2400	392	1025	665	318
	100.0	16.3	42.7	27.7	13.3

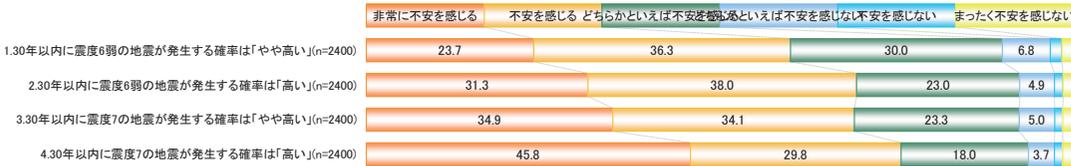
Q30.あなたはどちらの地図を見たときに、より危機感を感じますか。どちらか1つお選びください。※[画像を拡大]をクリックしていただくと拡大してご覧いただけます。

	n	%
全体	2400	100.0
1.地震動予測地図	1493	62.2
2.世界の震源分布図に見る日本	907	37.8



■地震の表現手法についてお伺いします。

Q31.地震の発生について次のような表現で示された場合、どの程度「不安」を感じますか。それぞれあてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) SA



	n	非常に不安を感じる	不安を感じる	どちらかといえば不安を感じる	どちらかといえば不安を感じない	不安を感じない	まったく不安を感じない
1.30年以内に震度6弱の地震が発生する確率は「やや高い」	2400	568	872	719	162	40	39
	100.0	23.7	36.3	30.0	6.8	1.7	1.6
2.30年以内に震度6弱の地震が発生する確率は「高い」	2400	752	912	553	118	29	36
	100.0	31.3	38.0	23.0	4.9	1.2	1.5
3.30年以内に震度7の地震が発生する確率は「やや高い」	2400	837	819	560	120	27	37
	100.0	34.9	34.1	23.3	5.0	1.1	1.5
4.30年以内に震度7の地震が発生する確率は「高い」	2400	1100	715	432	88	28	37
	100.0	45.8	29.8	18.0	3.7	1.2	1.5

Q32.地震の発生について次のような表現で示された場合、どの程度「個人的に(自分自身の)対策の必要性」を感じますか。それぞれあてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) SA



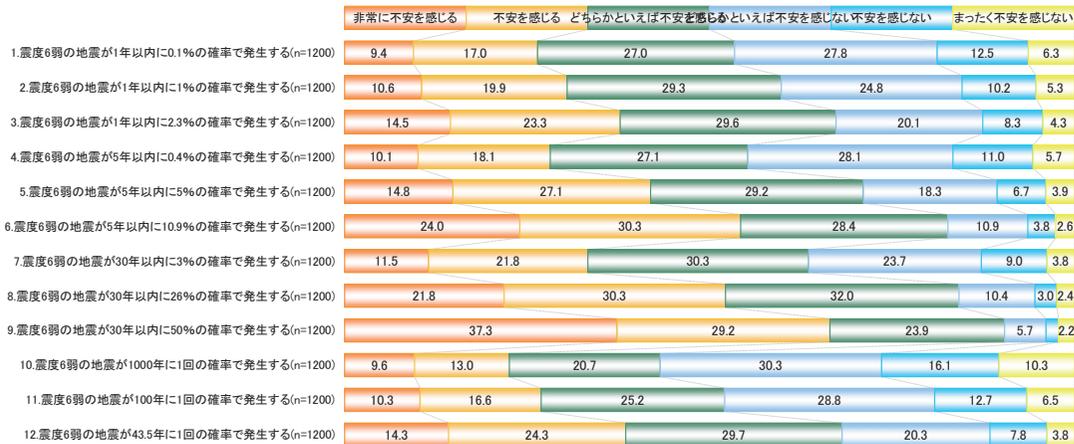
	n	非常に必要性を感じる	必要性を感じる	どちらかといえば必要性を感じる	どちらかといえば必要性を感じない	必要性を感じない	まったく必要性を感じない
1.30年以内に震度6弱の地震が発生する確率は「やや高い」	2400	523	826	763	199	45	44
	100.0	21.8	34.4	31.8	8.3	1.9	1.8
2.30年以内に震度6弱の地震が発生する確率は「高い」	2400	625	872	679	146	36	42
	100.0	26.0	36.3	28.3	6.1	1.5	1.8
3.30年以内に震度7の地震が発生する確率は「やや高い」	2400	717	844	620	141	34	44
	100.0	29.9	35.2	25.8	5.9	1.4	1.8
4.30年以内に震度7の地震が発生する確率は「高い」	2400	886	797	524	116	31	46
	100.0	36.9	33.2	21.8	4.8	1.3	1.9

Q33.地震の発生について次のような表現で示された場合、どの程度「国や自治体による対策の必要性」を感じますか。それぞれあてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) SA



	n	非常に必要性を感じる	必要性を感じる	どちらかといえば必要性を感じる	どちらかといえば必要性を感じない	必要性を感じない	まったく必要性を感じない
1.30年以内に震度6弱の地震が発生する確率は「やや高い」	2400	740	873	618	105	27	37
	100.0	30.8	36.4	25.8	4.4	1.1	1.5
2.30年以内に震度6弱の地震が発生する確率は「高い」	2400	859	851	547	83	25	35
	100.0	35.8	35.5	22.8	3.5	1.0	1.5
3.30年以内に震度7の地震が発生する確率は「やや高い」	2400	956	789	508	84	28	35
	100.0	39.8	32.9	21.2	3.5	1.2	1.5
4.30年以内に震度7の地震が発生する確率は「高い」	2400	1091	731	449	70	23	36
	100.0	45.5	30.5	18.7	2.9	1.0	1.5

■地震の予測、被害想定についてお伺いします。震度の確率についてお伺いします。(注)年数と%を変えて多数、質問しています。似た質問が続きますが、それぞれイメージしながら、感じる通りにお答えください。震度6弱の地震についてお伺いします。※「震度6弱の地震」は、立っていることが困難になり、建物が傾くこともあるほどの地震です  
Q34.地震の発生確率について、次のような表現で示された場合、どの程度「不安」を感じますか。それぞれあてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)  
SA



	n	非常に不安を感じる	不安を感じる	どちらかといえば不安を感じる	どちらかといえば不安を感じない	不安を感じない	まったく不安を感じない
1.震度6弱の地震が1年以内に0.1%の確率で発生する	1200	113	204	324	333	150	76
2.震度6弱の地震が1年以内に1%の確率で発生する	1200	127	239	352	297	122	63
3.震度6弱の地震が1年以内に2.3%の確率で発生する	1200	174	279	355	241	99	52
4.震度6弱の地震が5年以内に0.4%の確率で発生する	1200	145	233	296	201	83	43
5.震度6弱の地震が5年以内に5%の確率で発生する	1200	178	325	350	220	80	47
6.震度6弱の地震が5年以内に10.9%の確率で発生する	1200	288	363	341	131	46	31
7.震度6弱の地震が30年以内に3%の確率で発生する	1200	138	262	363	284	108	45
8.震度6弱の地震が30年以内に26%の確率で発生する	1200	262	364	384	125	36	29
9.震度6弱の地震が30年以内に50%の確率で発生する	1200	448	350	287	68	21	26
10.震度6弱の地震が1000年に1回の確率で発生する	1200	115	156	248	364	193	124
11.震度6弱の地震が100年に1回の確率で発生する	1200	124	199	302	345	152	78
12.震度6弱の地震が43.5年に1回の確率で発生する	1200	171	291	356	243	94	45

Q35.地震の発生確率について、次のような表現で示された場合、どの程度「個人的に(自分自身の)対策の必要性」を感じますか。それぞれあてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)  
SA



	n	非常に 必要性を感じ る	必要 性を感じ る	ど ちらか とい え ば 必 要 性 を 感 じ る	ど ちら か と い え ば 必 要 性 を 感 じ な い	必 要 性 を 感 じ な い	ま っ た く 必 要 性 を 感 じ な い
1.震度6弱の地震が1年以内に0.1%の確率で発生する	1200 100.0	103 8.6	197 16.4	341 28.4	343 28.6	134 11.2	82 6.8
2.震度6弱の地震が1年以内に1%の確率で発生する	1200 100.0	125 10.4	239 19.9	350 29.2	305 25.4	111 9.3	70 5.8
3.震度6弱の地震が1年以内に2.3%の確率で発生する	1200 100.0	152 12.7	274 22.8	395 32.9	234 19.5	87 7.3	58 4.8
4.震度6弱の地震が5年以内に0.4%の確率で発生する	1200 100.0	109 9.1	208 17.3	347 28.9	351 29.3	112 9.3	73 6.1
5.震度6弱の地震が5年以内に5%の確率で発生する	1200 100.0	156 13.0	300 25.0	376 31.3	241 20.1	74 6.2	53 4.4
6.震度6弱の地震が5年以内に10.9%の確率で発生する	1200 100.0	243 20.3	354 29.5	381 31.8	143 11.9	46 3.8	33 2.8
7.震度6弱の地震が30年以内に3%の確率で発生する	1200 100.0	128 10.7	242 20.2	363 30.3	327 27.3	82 6.8	58 4.8
8.震度6弱の地震が30年以内に26%の確率で発生する	1200 100.0	226 18.8	345 28.8	393 32.8	163 13.6	39 3.3	34 2.8
9.震度6弱の地震が30年以内に50%の確率で発生する	1200 100.0	366 30.5	378 31.5	316 26.3	86 7.2	26 2.2	28 2.3
10.震度6弱の地震が1000年に1回の確率で発生する	1200 100.0	106 8.8	168 14.0	292 24.3	355 29.6	152 12.7	127 10.6
11.震度6弱の地震が100年に1回の確率で発生する	1200 100.0	119 9.9	213 17.8	332 27.7	318 26.5	136 11.3	82 6.8
12.震度6弱の地震が43.5年に1回の確率で発生する	1200 100.0	180 15.0	304 25.3	364 30.3	228 19.0	73 6.1	51 4.3

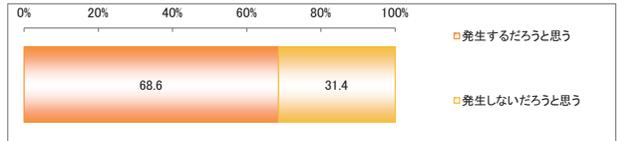
Q36.地震の発生確率について、次のような表現で示された場合、どの程度「国や自治体による対策の必要性」を感じますか。それぞれあてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) SA



	n	非常に 必要性を感じ る	必要 性を感じ る	ど ちらか とい え ば 必 要 性 を 感 じ る	ど ちら か と い え ば 必 要 性 を 感 じ な い	必 要 性 を 感 じ な い	ま っ た く 必 要 性 を 感 じ な い
1.震度6弱の地震が1年以内に0.1%の確率で発生する	1200 100.0	148 12.3	269 22.4	349 29.1	275 22.9	96 8.0	63 5.3
2.震度6弱の地震が1年以内に1%の確率で発生する	1200 100.0	179 14.9	286 23.8	356 29.7	245 20.4	77 6.4	57 4.8
3.震度6弱の地震が1年以内に2.3%の確率で発生する	1200 100.0	219 18.3	327 27.3	364 30.3	182 15.2	58 4.8	50 4.2
4.震度6弱の地震が5年以内に0.4%の確率で発生する	1200 100.0	153 12.8	276 23.0	358 29.8	267 22.3	86 7.2	60 5.0
5.震度6弱の地震が5年以内に5%の確率で発生する	1200 100.0	230 19.2	348 29.0	357 29.8	168 14.0	53 4.4	44 3.7
6.震度6弱の地震が5年以内に10.9%の確率で発生する	1200 100.0	314 26.2	375 31.3	349 29.1	94 7.8	41 3.4	27 2.3
7.震度6弱の地震が30年以内に3%の確率で発生する	1200 100.0	187 15.6	302 25.2	374 31.2	227 18.9	63 5.3	47 3.9
8.震度6弱の地震が30年以内に26%の確率で発生する	1200 100.0	305 25.4	379 31.6	345 28.8	112 9.3	32 2.7	27 2.3
9.震度6弱の地震が30年以内に50%の確率で発生する	1200 100.0	438 36.5	362 30.2	287 23.9	72 6.0	19 1.6	22 1.8
10.震度6弱の地震が1000年に1回の確率で発生する	1200 100.0	140 11.7	232 19.3	323 26.9	293 24.4	116 9.7	96 8.0
11.震度6弱の地震が100年に1回の確率で発生する	1200 100.0	170 14.2	284 23.7	349 29.1	249 20.8	82 6.8	66 5.5
12.震度6弱の地震が43.5年に1回の確率で発生する	1200 100.0	263 21.9	358 29.8	335 27.9	154 12.8	55 4.6	35 2.9

Q37.あなたは今後、一生のうちに、現在住んでいる場所で震度6弱以上の地震が発生すると思いますか。

	n	%
全体	1200	100.0
1 発生するだろうと思う	823	68.6
2 発生しないだろうと思う	377	31.4



Q38.確率についてお伺いします。感覚でかまいませんので、数字でご記入ください。(半角数字でご記入ください)

(1)現在住んでいる場所で震度6弱以上の地震が発生する確率はどれくらいだと思いますか。 %

全体	1200	平均値	31.14
----	------	-----	-------

Q38.確率についてお伺いします。感覚でかまいませんので、数字でご記入ください。(半角数字でご記入ください)

(2)現在住んでいる場所で震度6弱以上の地震は、だいたい何年以内に発生するだろうと思いますか。 年

全体	1200	平均値	90.40
----	------	-----	-------

Q38.確率についてお伺いします。感覚でかまいませんので、数字でご記入ください。(半角数字でご記入ください)

(3)現在住んでいる場所で震度6弱以上の地震は、「〇〇年以内に〇%くらいの確率で発生する」という形で表現されることが多いのですが、あなたは、本気で災害対策をとるべき数字としては「〇年以内」と表現されるのがよいと思いますか。 年以内

全体	1200	平均値	20.16
----	------	-----	-------

Q38.確率についてお伺いします。感覚でかまいませんので、数字でご記入ください。(半角数字でご記入ください)

(4)現在住んでいる場所で震度6弱以上の地震は、「〇〇%以上と表現されるのがよいと思いますか。 %以上

全体	1200	平均値	36.97
----	------	-----	-------

Q39.次に、あなたのお考えについてお聞きします。(半角数字でご記入ください)

(1)現在住んでいる場所で震度6弱以上の地震は、30年以内に何パーセント以上であれば、「高い」と感じますか。 \_\_%以上

全体	1200	平均値	38.13
----	------	-----	-------

Q39.次に、あなたのお考えについてお聞きします。(半角数字でご記入ください)

(2)現在住んでいる場所で震度6弱以上の地震は、30年以内に何パーセント以上であれば、「不安」を感じますか。 \_\_%以上

全体	1200	平均値	38.60
----	------	-----	-------

Q39.次に、あなたのお考えについてお聞きします。(半角数字でご記入ください)

(3)現在住んでいる場所で震度6弱以上の地震は、30年以内に何パーセント以上であれば、「国や自治体の対策の必要性」を感じますか。 \_\_%以上

全体	1200	平均値	31.66
----	------	-----	-------

Q39.次に、あなたのお考えについてお聞きします。(半角数字でご記入ください)

(4)現在住んでいる場所で震度6弱以上の地震は、30年以内に何パーセント以上であれば、「個人的に(自分自身の)対策の必要性」を感じますか。 \_\_%以上

全体	1200	平均値	36.90
----	------	-----	-------

Q40.では逆の聞き方をします。(半角数字でご記入ください)

(1)現在住んでいる場所で震度6弱以上の地震は、30年以内に何パーセント以下であれば、「低い」と感じますか。 \_\_%以下

全体	1200	平均値	10.94
----	------	-----	-------

Q40.では逆の聞き方をします。(半角数字でご記入ください)

(2)現在住んでいる場所で震度6弱以上の地震は、30年以内に何パーセント以下であれば、「大したことない」と感じますか。 \_\_%以下

全体	1200	平均値	9.53
----	------	-----	------

Q40.では逆の聞き方をします。(半角数字でご記入ください)

(3)現在住んでいる場所で震度6弱以上の地震は、30年以内に何パーセント以下であれば、「国や自治体の対策の必要性はない」と感じますか。 \_\_%以下

全体	1200	平均値	9.53
----	------	-----	------

Q40.では逆の聞き方をします。(半角数字でご記入ください)

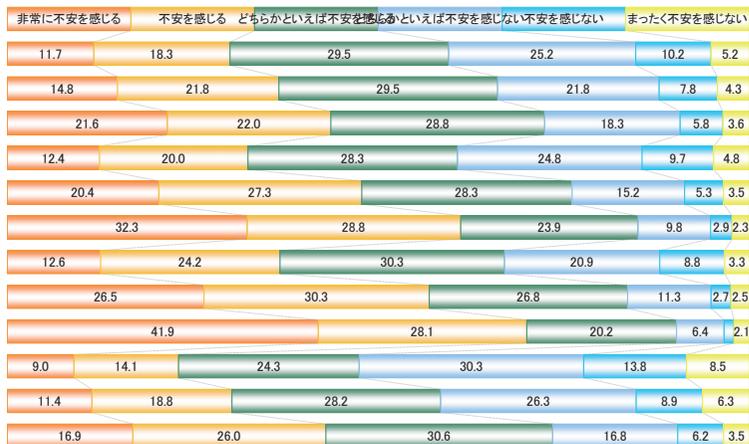
(4)現在住んでいる場所で震度6弱以上の地震は、30年以内に何パーセント以下であれば、「個人的に(自分自身の)対策の必要性はない」と感じますか。 \_\_%以下

全体	1200	平均値	10.63
----	------	-----	-------

■地震の予測、被害想定についてお伺いします。震度の確率についてお伺いします。(注)年数と%を変えて多数、質問しています。似た質問が続きますが、それぞれイメージしながら、感じる通りにお答えください。震度7の地震についてお伺いします。※「震度7の地震」は、自分の意志で行動できないほどの揺れて、最大規模の地震です。

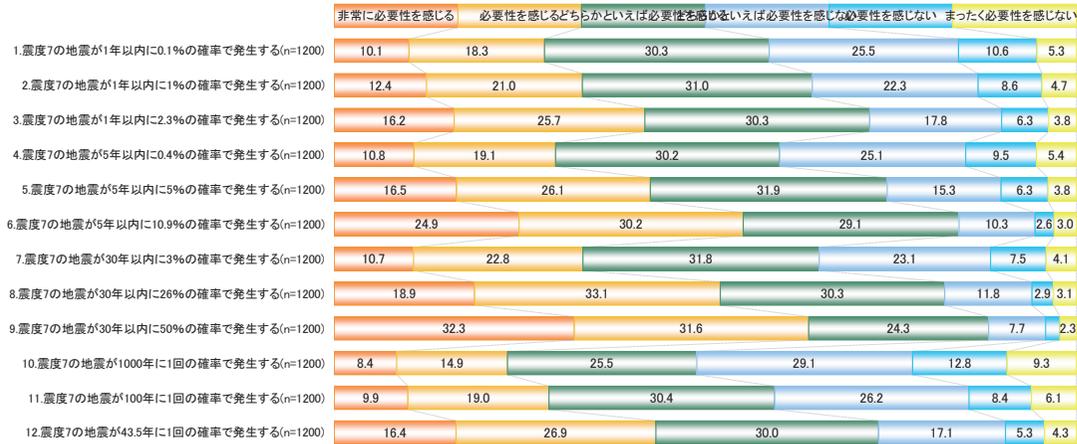
Q41.地震の発生確率について、次のような表現で示された場合、どの程度「不安」を感じますか。それぞれあてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

SA



	n	非常に不安を感じる	不安を感じる	どちらかといえば不安を感じる	どちらかといえば不安を感じない	不安を感じない	まったく不安を感じない
1.震度7の地震が1年以内に0.1%の確率で発生する	1200 100.0	140 11.7	220 18.3	354 29.5	302 25.2	122 10.2	62 5.2
2.震度7の地震が1年以内に1%の確率で発生する	1200 100.0	178 14.8	261 21.8	354 29.5	261 21.8	94 7.8	52 4.3
3.震度7の地震が1年以内に2.3%の確率で発生する	1200 100.0	259 21.6	264 22.0	346 28.8	219 18.3	69 5.8	43 3.6
4.震度7の地震が5年以内に0.4%の確率で発生する	1200 100.0	149 12.4	240 20.0	339 28.3	298 24.8	116 9.7	58 4.8
5.震度7の地震が5年以内に5%の確率で発生する	1200 100.0	245 20.4	328 27.3	340 28.3	182 15.2	63 5.3	42 3.5
6.震度7の地震が5年以内に10.9%の確率で発生する	1200 100.0	388 32.3	345 28.8	287 23.9	117 9.8	35 2.9	28 2.3
7.震度7の地震が30年以内に3%の確率で発生する	1200 100.0	151 12.6	290 24.2	363 30.3	251 20.9	105 8.8	40 3.3
8.震度7の地震が30年以内に26%の確率で発生する	1200 100.0	318 26.5	364 30.3	321 26.8	135 11.3	32 2.7	30 2.5
9.震度7の地震が30年以内に50%の確率で発生する	1200 100.0	503 41.9	337 28.1	242 20.2	77 6.4	16 1.3	25 2.1
10.震度7の地震が1000年に1回の確率で発生する	1200 100.0	108 9.0	169 14.1	292 24.3	363 30.3	166 13.8	102 8.5
11.震度7の地震が100年に1回の確率で発生する	1200 100.0	137 11.4	226 18.8	338 28.2	316 26.3	107 8.9	76 6.3
12.震度7の地震が43.5年に1回の確率で発生する	1200 100.0	203 16.9	312 26.0	367 30.6	202 16.8	74 6.2	42 3.5

Q42.地震の発生確率について、次のような表現で示された場合、どの程度「個人的に(自分自身の)対策の必要性」を感じますか。それぞれあてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) SA



	n	非常に必要性を感じる	必要性を感じる	どちらかといえば必要性を感じる	どちらかといえば必要性を感じない	必要性を感じない	まったく必要性を感じない
1.震度7の地震が1年以内に0.1%の確率で発生する	1200 100.0	121 10.1	219 18.3	363 30.3	306 25.5	127 10.6	64 5.3
2.震度7の地震が1年以内に1%の確率で発生する	1200 100.0	149 12.4	252 21.0	372 31.0	268 22.3	103 8.6	56 4.7
3.震度7の地震が1年以内に2.3%の確率で発生する	1200 100.0	194 16.2	308 25.7	364 30.3	213 17.8	76 6.3	45 3.8
4.震度7の地震が5年以内に0.4%の確率で発生する	1200 100.0	129 10.8	229 19.1	382 30.2	301 25.1	114 9.5	65 5.4
5.震度7の地震が5年以内に5%の確率で発生する	1200 100.0	198 16.5	313 26.1	383 31.9	184 15.3	76 6.3	46 3.8
6.震度7の地震が5年以内に10.9%の確率で発生する	1200 100.0	299 24.9	362 30.2	349 29.1	123 10.3	31 2.6	36 3.0
7.震度7の地震が30年以内に3%の確率で発生する	1200 100.0	128 10.7	274 22.8	382 31.8	277 23.1	90 7.5	49 4.1
8.震度7の地震が30年以内に26%の確率で発生する	1200 100.0	227 18.9	397 33.1	363 30.3	141 11.8	35 2.9	37 3.1
9.震度7の地震が30年以内に50%の確率で発生する	1200 100.0	388 32.3	379 31.6	291 24.3	92 7.7	23 1.9	27 2.3
10.震度7の地震が1000年に1回の確率で発生する	1200 100.0	101 8.4	179 14.9	306 25.5	349 29.1	153 12.8	112 9.3
11.震度7の地震が100年に1回の確率で発生する	1200 100.0	119 9.9	228 19.0	365 30.4	314 26.2	101 8.4	73 6.1
12.震度7の地震が43.5年に1回の確率で発生する	1200 100.0	197 16.4	323 26.9	360 30.0	205 17.1	63 5.3	52 4.3

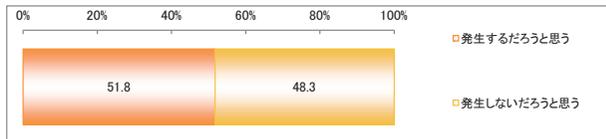
Q43.地震の発生確率について、次のような表現で示された場合、どの程度「国や自治体による対策の必要性」を感じますか。それぞれあてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) SA



	n	非常に必要性を感じる	必要性を感じる	どちらかといえば必要性を感じる	どちらかといえば必要性を感じない	必要性を感じない	まったく必要性を感じない
1.震度7の地震が1年以内に0.1%の確率で発生する	1200	165	267	355	275	94	44
2.震度7の地震が1年以内に1%の確率で発生する	1200	200	295	352	238	77	38
3.震度7の地震が1年以内に2.3%の確率で発生する	1200	259	305	362	184	54	36
4.震度7の地震が5年以内に0.4%の確率で発生する	1200	166	277	368	262	82	45
5.震度7の地震が5年以内に5%の確率で発生する	1200	244	334	370	167	50	35
6.震度7の地震が5年以内に10.9%の確率で発生する	1200	343	369	339	96	23	30
7.震度7の地震が30年以内に3%の確率で発生する	1200	195	279	419	199	63	45
8.震度7の地震が30年以内に26%の確率で発生する	1200	317	373	358	100	23	29
9.震度7の地震が30年以内に50%の確率で発生する	1200	448	358	287	66	15	26
10.震度7の地震が1000年に1回の確率で発生する	1200	139	212	340	315	118	76
11.震度7の地震が100年に1回の確率で発生する	1200	170	285	399	212	79	55
12.震度7の地震が43.5年に1回の確率で発生する	1200	277	353	349	140	46	35

Q44.あなたは今後、一生のうちに、現在住んでいる場所で震度7の地震が発生すると思いますか。 SA

	n	%
1.発生するだろうと思う	621	51.8
2.発生しないだろうと思う	579	48.3



Q45.確率についてお伺いします。感覚でかまいませんので、数字でご記入ください。(半角数字でご記入ください)

(1)現在住んでいる場所で震度7の地震が発生する確率はどれくらいだと思いますか。\_\_%

	値
全体	1200
平均値	23.24
最小値	0.00
最大値	100.00

Q45.確率についてお伺いします。感覚でかまいませんので、数字でご記入ください。(半角数字でご記入ください)

(2)現在住んでいる場所で震度7の地震は、だいたい何年以内に発生するだろうと思いますか。\_\_年

	値
全体	1200
平均値	1995.56
最小値	0.00
最大値	1000000.00

Q45.確率についてお伺いします。感覚でかまいませんので、数字でご記入ください。(半角数字でご記入ください)

(3)現在住んでいる場所で震度7の地震は、「〇〇年以内に〇%くらいの確率で発生する」という形で表現されることが多いのですが、あなたは、本気で災害対策をとるべき数字としては「〇年以内」と表現されるのがよいと思いますか。\_\_年以内

	値
全体	1200
平均値	32.07
最小値	0.00
最大値	2030.00

Q45. 確率についてお伺いします。感覚でかまいませんので、数字でご記入ください。(半角数字でご記入ください)

(4) 現在住んでいる場所で震度7の地震は、「〇〇年以内に〇%くらいの確率で発生する」という形で表現されることが多いのですが、あなたは、本気で災害対策をとるべき数字としては「〇%以上」と表現されるのがよいと思いませんか。\_\_%以上

	値
全体	1200
平均値	33.71
最小値	0.00
最大値	100.00

Q46. 次に、あなたのお考えについてお聞きします。(半角数字でご記入ください)

(1) 現在住んでいる場所で震度7の地震は、30年以内に何パーセント以上であれば、「高い」と感じますか。\_\_%以上

	値
全体	1200
平均値	35.25
最小値	0.00
最大値	100.00

Q46. 次に、あなたのお考えについてお聞きします。(半角数字でご記入ください)

(2) 現在住んでいる場所で震度7の地震は、30年以内に何パーセント以上であれば、「不安」を感じますか。\_\_%以上

	値
全体	1200
平均値	35.36
最小値	0.00
最大値	100.00

Q46. 次に、あなたのお考えについてお聞きします。(半角数字でご記入ください)

(3) 現在住んでいる場所で震度7の地震は、30年以内に何パーセント以上であれば、「国や自治体の対策の必要性」を感じますか。\_\_%以上

	値
全体	1200
平均値	29.89
最小値	0.00
最大値	100.00

Q46. 次に、あなたのお考えについてお聞きします。(半角数字でご記入ください)

(4) 現在住んでいる場所で震度7の地震は、30年以内に何パーセント以上であれば、「個人的に(自分自身の)対策の必要性」を感じますか。\_\_%以上

	値
全体	1200
平均値	34.86
最小値	0.00
最大値	100.00

Q47. では逆の聞き方をします。(半角数字でご記入ください)

(1) 現在住んでいる場所で震度7の地震は、30年以内に何パーセント以下であれば、「低い」と感じますか。\_\_%以下

	値
全体	1200
平均値	10.02
最小値	0.00
最大値	99.00

Q47. では逆の聞き方をします。(半角数字でご記入ください)

(2) 現在住んでいる場所で震度7の地震は、30年以内に何パーセント以下であれば、「大したことない」と感じますか。\_\_%以下

	値
全体	1200
平均値	9.14
最小値	0.00
最大値	99.00

Q47. では逆の聞き方をします。(半角数字でご記入ください)

(3) 現在住んでいる場所で震度7の地震は、30年以内に何パーセント以下であれば、「国や自治体の対策の必要性はない」と感じますか。\_\_%以下

	値
全体	1200
平均値	9.08
最小値	0.00
最大値	100.00

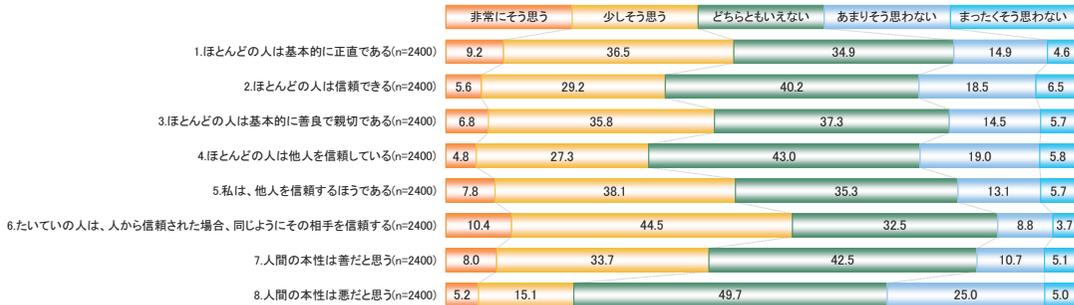
Q47. では逆の聞き方をします。(半角数字でご記入ください)

(4) 現在住んでいる場所で震度7の地震は、30年以内に何パーセント以下であれば、「個人的に(自分自身の)対策の必要性はない」と感じますか。\_\_%以下

	値
全体	1200
平均値	10.12
最小値	0.00
最大値	99.00

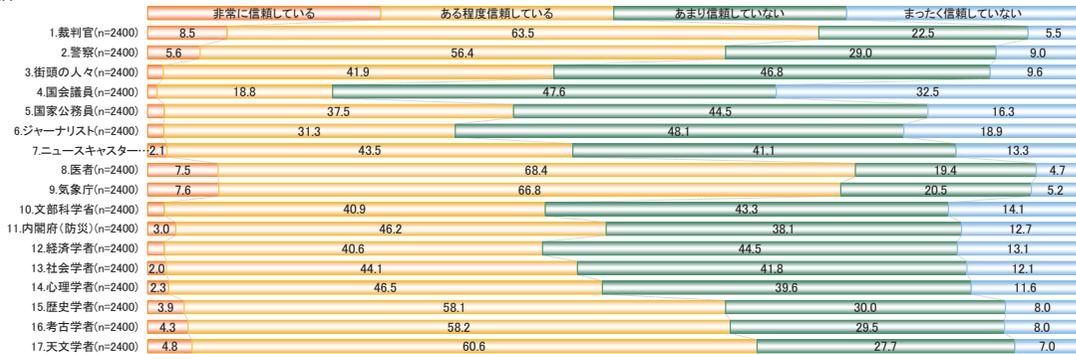
■ 信頼感についてお伺いします。

Q48. あなたは、次の1~8の考え方についてどう思いますか。以下の1~8それぞれについてそれぞれ、あてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) SA



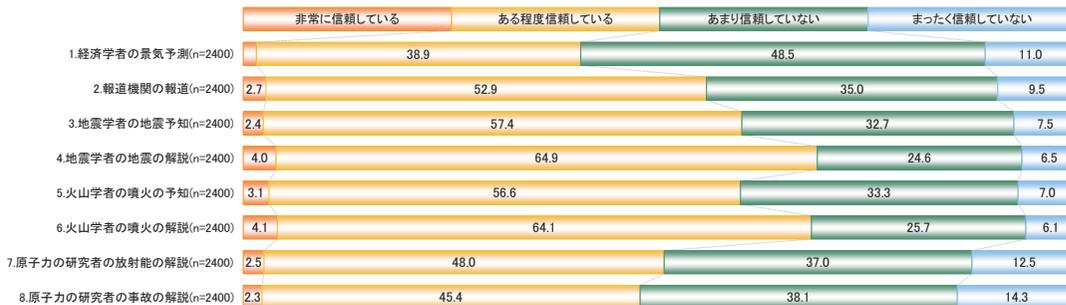
	n	非常に そう思う	少し そう思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	ま ったく そう思 わない
1.ほとんどの人は基本的に正直である	2400 100.0	220 9.2	876 36.5	837 34.9	357 14.9	110 4.6
2.ほとんどの人は信頼できる	2400 100.0	135 5.6	700 29.2	965 40.2	445 18.5	155 6.5
3.ほとんどの人は基本的に善良で親切である	2400 100.0	162 6.8	860 35.8	894 37.3	347 14.5	137 5.7
4.ほとんどの人は他人を信頼している	2400 100.0	116 4.8	656 27.3	1033 43.0	455 19.0	140 5.8
5.私は、他人を信頼するほうである	2400 100.0	187 7.8	915 38.1	847 35.3	314 13.1	137 5.7
6.たいていの人は、人から信頼された場合、同じようにその相手を信頼する	2400 100.0	250 10.4	1069 44.5	781 32.5	211 8.8	89 3.7
7.人間の本性は善だと思	2400 100.0	193 8.0	808 33.7	1020 42.5	257 10.7	122 5.1
8.人間の本性は悪だと思	2400 100.0	124 5.2	363 15.1	1193 49.7	599 25.0	121 5.0

Q49.一般的に言って、次のような人や組織を信頼していますか。以下の1~20についてそれぞれ、あてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)  
SA



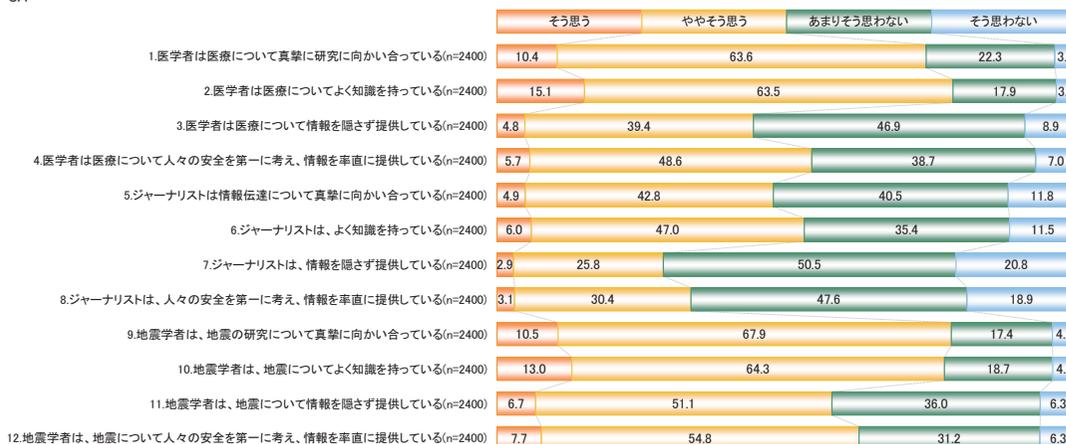
	n	非 常に 信 頼 し て い る	あ る 程 度 信 頼 し て い る	あ ま り 信 頼 し て い な い	い ま っ た く 信 頼 し て い な い
1.裁判官	2400 100.0	205 8.5	1523 63.5	539 22.5	133 5.5
2.警察	2400 100.0	135 5.6	1353 56.4	697 29.0	215 9.0
3.街頭の人々	2400 100.0	40 1.7	1006 41.9	1124 46.8	230 9.6
4.国会議員	2400 100.0	24 1.0	452 18.8	1143 47.6	781 32.5
5.国家公務員	2400 100.0	43 1.8	899 37.5	1067 44.5	391 16.3
6.ジャーナリスト	2400 100.0	42 1.8	750 31.3	1155 48.1	453 18.9
7.ニュースキャスター	2400 100.0	50 2.1	1045 43.5	987 41.1	318 13.3
8.医者	2400 100.0	181 7.5	1641 68.4	466 19.4	112 4.7
9.気象庁	2400 100.0	183 7.6	1602 66.8	491 20.5	124 5.2
10.文部科学省	2400 100.0	43 1.8	981 40.9	1038 43.3	338 14.1
11.内閣府(防災)	2400 100.0	72 3.0	1109 46.2	915 38.1	304 12.7
12.経済学者	2400 100.0	43 1.8	974 40.6	1068 44.5	315 13.1
13.社会学者	2400 100.0	48 2.0	1059 44.1	1003 41.8	290 12.1
14.心理学者	2400 100.0	54 2.3	1117 46.5	950 39.6	279 11.6
15.歴史学者	2400 100.0	94 3.9	1394 58.1	721 30.0	191 8.0
16.考古学者	2400 100.0	104 4.3	1396 58.2	707 29.5	193 8.0
17.天文学者	2400 100.0	114 4.8	1455 60.6	664 27.7	167 7.0
18.地震学者	2400 100.0	78 3.3	1395 58.1	741 30.9	186 7.8
19.火山学者	2400 100.0	81 3.4	1402 58.4	740 30.8	177 7.4
20.原子力の研究者	2400 100.0	53 2.2	1100 45.8	902 37.6	345 14.4

Q50.一般的に言って、下記に示すものを信頼していますか。以下の1～8についてそれぞれ、あてはまるものを1つだけお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)  
SA



	n	非常に信頼している	ある程度信頼している	あまり信頼していない	まったく信頼していない
1.経済学者の景気予測	2400 100.0	38 1.6	934 38.9	1165 48.5	263 11.0
2.報道機関の報道	2400 100.0	65 2.7	1269 52.9	839 35.0	227 9.5
3.地震学者の地震予知	2400 100.0	58 2.4	1378 57.4	784 32.7	180 7.5
4.地震学者の地震の解説	2400 100.0	95 4.0	1558 64.9	590 24.6	157 6.5
5.火山学者の噴火の予知	2400 100.0	74 3.1	1358 56.6	800 33.3	168 7.0
6.火山学者の噴火の解説	2400 100.0	99 4.1	1538 64.1	617 25.7	146 6.1
7.原子力の研究者の放射能の解説	2400 100.0	60 2.5	1152 48.0	887 37.0	301 12.5
8.原子力の研究者の事故の解説	2400 100.0	54 2.3	1089 45.4	914 38.1	343 14.3

Q51.あなたは次のことについてどう思いますか。それぞれあてはまるものを1つずつお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)  
SA

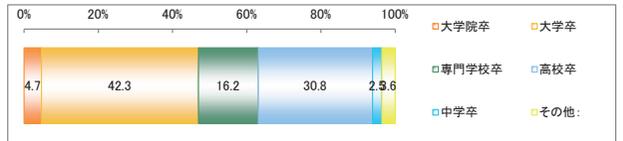


	n	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1. 医学者は医療について真摯に研究に向かい合っている	2400 100.0	250 10.4	1527 63.6	534 22.3	89 3.7
2. 医学者は医療についてよく知識を持っている	2400 100.0	363 15.1	1525 63.5	429 17.9	83 3.5
3. 医学者は医療について情報を隠さず提供している	2400 100.0	116 4.8	946 39.4	1125 46.9	213 8.9
4. 医学者は医療について人々の安全を第一に考え、情報を率直に提供	2400 100.0	137 5.7	1167 48.6	928 38.7	168 7.0
5. ジャーナリストは情報伝達について真摯に向かい合っている	2400 100.0	118 4.9	1027 42.8	972 40.5	283 11.8
6. ジャーナリストは、よく知識を持っている	2400 100.0	144 6.0	1129 47.0	850 35.4	277 11.5
7. ジャーナリストは、情報を隠さず提供している	2400 100.0	69 2.9	620 25.8	1212 50.5	499 20.8
8. ジャーナリストは、人々の安全を第一に考え、情報を率直に提供して	2400 100.0	74 3.1	730 30.4	1143 47.6	453 18.9
9. 地震学者は、地震の研究について真摯に向かい合っている	2400 100.0	253 10.5	1629 67.9	418 17.4	100 4.2
10. 地震学者は、地震についてよく知識を持っている	2400 100.0	311 13.0	1542 64.3	449 18.7	98 4.1
11. 地震学者は、地震について情報を隠さず提供している	2400 100.0	161 6.7	1226 51.1	863 36.0	150 6.3
12. 地震学者は、地震について人々の安全を第一に考え、情報を率直に	2400 100.0	185 7.7	1315 54.8	749 31.2	151 6.3

■最後にあなた自身のことについてお伺いします。  
Q52. あなたの最終的な学歴をお教えてください。

SA

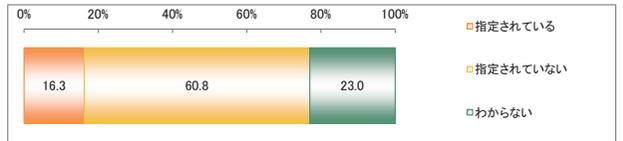
	n	%
全体	2400	100.0
1 大学院卒	113	4.7
2 大学卒	1014	42.3
3 専門学校卒	388	16.2
4 高校卒	739	30.8
5 中学卒	60	2.5
6 その他	86	3.6



Q53. あなたのお住まいの地域は、津波の危険があると市から指定されていますか。あてはまるものを1つお選びください。

SA

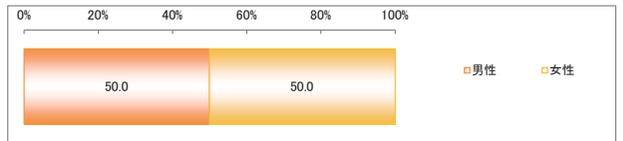
	n	%
全体	2400	100.0
1 指定されている	390	16.3
2 指定されていない	1459	60.8
3 わからない	551	23.0



性別

SA

	n	%
全体	2400	100.0
1 男性	1200	50.0
2 女性	1200	50.0



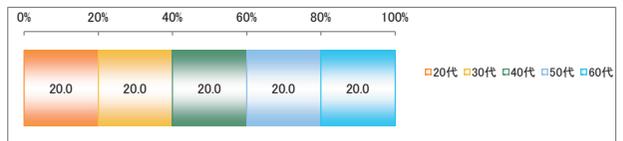
年齢

全体	2400
平均値	44.94
最小値	20.00
最大値	69.00

年代

SA

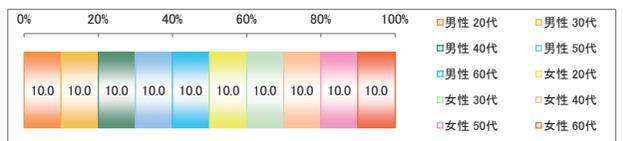
	n	%
全体	2400	100.0
1 20代	480	20.0
2 30代	480	20.0
3 40代	480	20.0
4 50代	480	20.0
5 60代	480	20.0



性年代

SA

	n	%
全体	2400	100.0
1 男性 20代	240	10.0
2 男性 30代	240	10.0
3 男性 40代	240	10.0
4 男性 50代	240	10.0
5 男性 60代	240	10.0
6 女性 20代	240	10.0
7 女性 30代	240	10.0
8 女性 40代	240	10.0
9 女性 50代	240	10.0
10 女性 60代	240	10.0



エリア(47都道府県+指定エリア)

SA

	n	%
全体	2400	100.0
1 北海道	50	2.1
2 青森県	50	2.1
3 岩手県	50	2.1
4 宮城県	50	2.1
5 秋田県	50	2.1
6 山形県	50	2.1
7 福島県	50	2.1
8 茨城県	50	2.1
9 栃木県	50	2.1
10 群馬県	50	2.1
11 埼玉県	50	2.1
12 千葉県	50	2.1
13 東京都	50	2.1
14 神奈川県	50	2.1
15 新潟県	50	2.1
16 富山県	50	2.1
17 石川県	50	2.1
18 福井県	50	2.1
19 山梨県	50	2.1
20 長野県	50	2.1
21 岐阜県	50	2.1
22 静岡県	50	2.1
23 愛知県	50	2.1
24 三重県	50	2.1
25 滋賀県	50	2.1
26 京都府	50	2.1
27 大阪府	50	2.1
28 兵庫県	50	2.1
29 奈良県	50	2.1
30 和歌山県	50	2.1
31 鳥取県	50	2.1
32 島根県	50	2.1
33 岡山県	50	2.1
34 広島県	50	2.1
35 山口県	50	2.1
36 徳島県	50	2.1
37 香川県	50	2.1
38 愛媛県	50	2.1
39 高知県	50	2.1
40 福岡県	50	2.1
41 佐賀県	50	2.1
42 長崎県	50	2.1
43 熊本県	50	2.1
44 大分県	50	2.1
45 宮崎県	50	2.1
46 鹿児島県	50	2.1
47 沖縄県	50	2.1
48 指定エリア	50	2.1

